

江戸名所圖會

三

和書門			
類	號	函	架
三	六	二	二
三	六	二	二

内閣文庫			
類	號	冊	架
〇	七	八	一
〇	七	八	一

内閣文庫	
番號	和 8870
冊數	20 (3)
函號	174 36



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

三縁山増上寺 廣度院と魏淵東洋家の總本寺十八檀林

冠首として盛大の佛域とる百一代 後小松院の寺願に

刪山大蓮社西譽上人中興を普光觀智國師なり



以て最勝とする小因と 能野指しあつたれも又君子の標なり

本堂本尊阿彌陀如来 惠心僧都の作中運慶の作なり

額三縁山廓上人真蹟 上人ハ當寺第十三世なり甲州の産なり

御經藏 本堂の前左の方辨の中より或人云く平政子の奇附なり

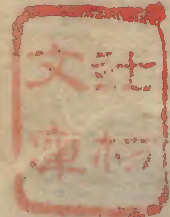
後秀坂九共衛尉 台命を奉り當山より平政子の奇附なり

ありと寛永九年照譽上人子宇大和尚 經藏と創立しるなり

官造は列を

開山堂 同所左なる當寺開山以下累世大僧の

遺像を以て靈殿と置きしなり



寺上増山縁三



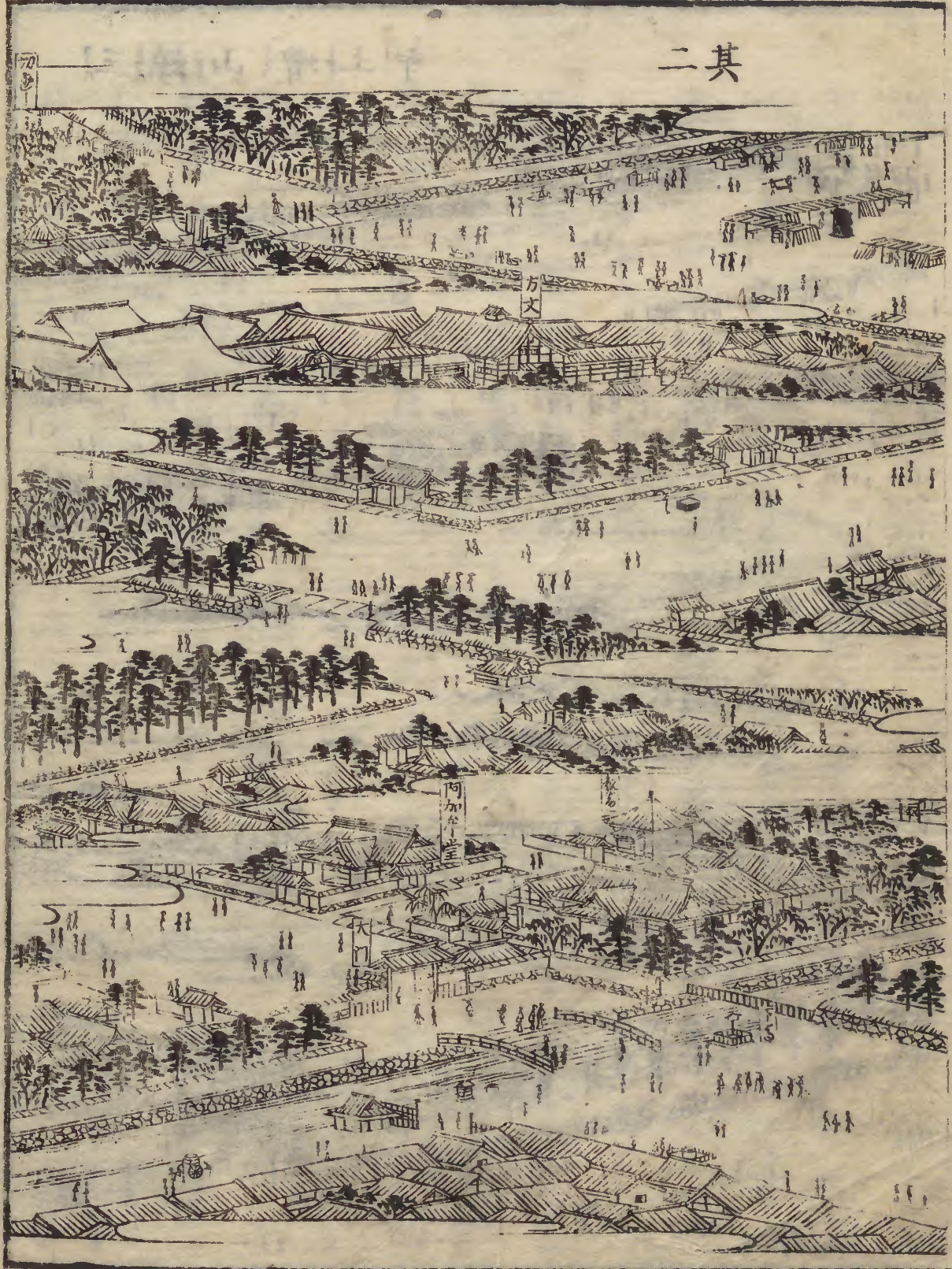
開山百廿上人諱ハ聖聰大蓮社と号ハ 鎮西正統 貞治五年
 七月十日 千葉系圖貞治二年 北徳の千葉に生る父ハ千葉陸奥守
 氏胤母ハ新田氏ある童名を徳壽丸と云 十代あり 加冠して
 胤明と称す出離の志深く釋典を慕ふ九歳かゝり遂に同國
 千葉寺に入り落飾し初に密教を學び後同公に投歸して淨
 宗に入り智道倍熾なり其後武州豊島郡江戸貝塚の光明寺に
 住せし 今の増上寺是なり 江戸名勝志云増上寺の
 旧地ハ荒田一丁目越後やと云辺なりとあり 此寺始ハ真言瑜伽の
 道場なり一々竟に光明寺を改めて三縁山増上寺と号し宗
 風との轉々淨業の精舎とす 永享十二年庚申七月十八日
 没ハ 歳七十五臘六十七 東國高僧傳ハ應永二十四年 中興開山
 勅賜普光觀智國師諱ハ存應字ハ慈昌貞蓮社源誓上人
 と号也 平山左衛門尉孝重の後裔なり 傳燈 天文十三年 獲國高
 武州由木よける始衣と片山の宝臺寺に樞ハ十八歳感誓

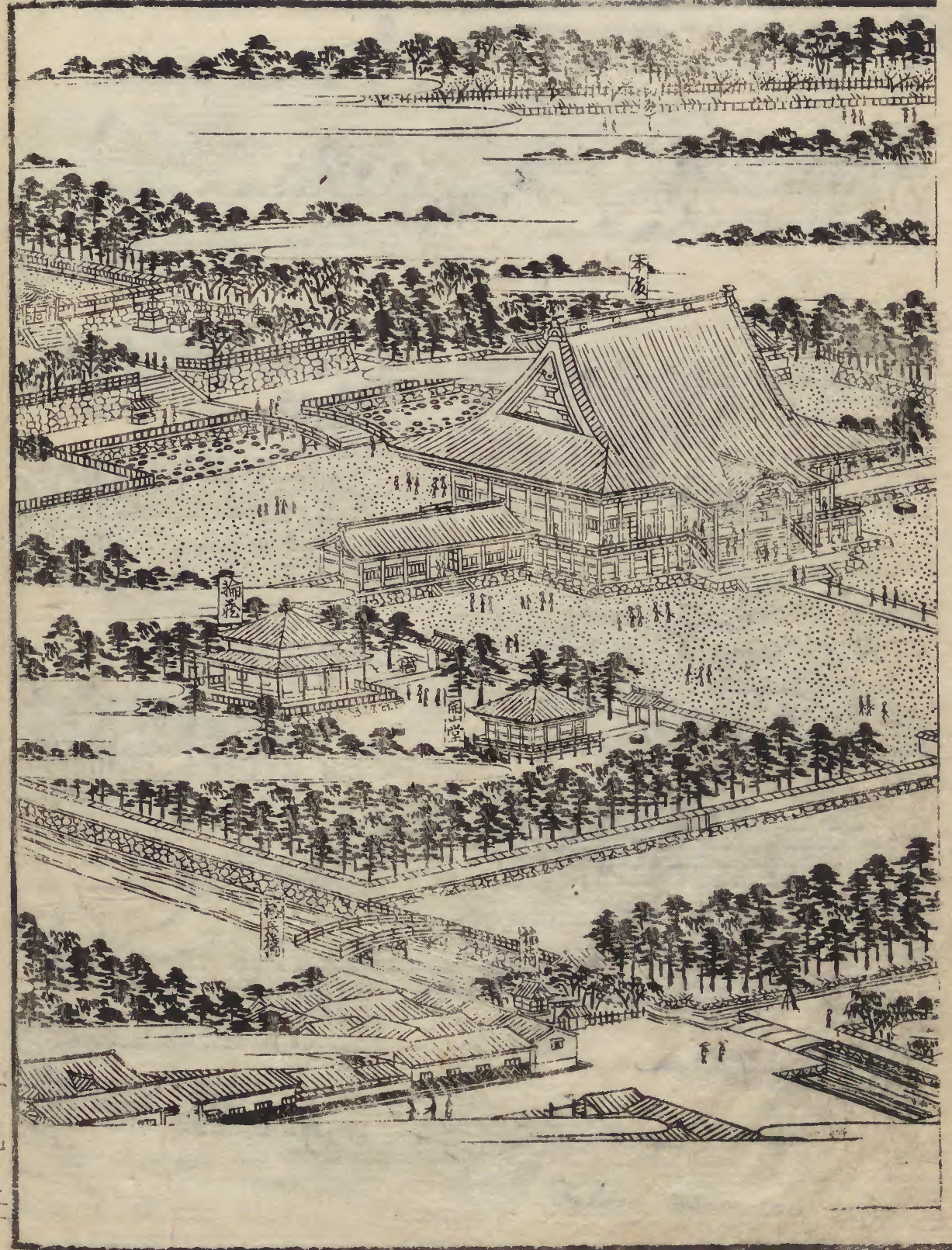
白金(多)



産米

二其





其四



上人は帰して登壇受戒を天資聰悟の顯密の教を
究む上人没後上叢に到る長傳寺を創し大に法席を
開く人呼て教海の義龍蓮苑に祥鳳といふ天正十二年
雲譽上人の會下より同十七年八月聖書を傳兼して
増上寺第十二世となり當寺第十二世より同十八年天下安靖なるに逮

んで大に
大神君の眷顧を多し屢營中は清せしめて法要茂聴
受し多し崇信他より異なり竟に増上寺と修營せしむ
植福の地と稱しあり又

後陽成帝師と宮内より徴し道と向り盛に淨教に深
旨を陳せ獻感ありて褒章を加へ新に宸翰を深まひ
特に普光觀智國師の號を賜ふ時慶長十五年七月十
九日なり元和六年師微恙を承り嗣君



此中 蓮池 芙蓉洲 天宮社

增上寺山内

大將軍親ら臨じて忝くも疾と問せらる十一月二日諸徒よ遺誠
辭世の偈を書し曰く佛話提撕心頭塵未後一句但
稱佛と筆と抛く端座合掌一佛号と唱へく化も世壽七十
有七僧臘六十護國篇世壽八十あり門葉姓くく学
徒流よ浴を撰述まると論義決擇集阿弥陀経直譯
等大世よ行る傳燈系圖等よ此の
大銅鐘 本堂の右の方より鐘の厚さ尺余口の渡り五尺八寸をとり
森上入歷天大和尚延宝元年十一月十四日神谷長五郎平直重須田
次郎太郎源祇胤鑄工推名伊豫吉寛云く其聲洪大ゆく遠く百里に
聞ゆ一撞の間の響も長く一里を度るゆく一里鐘と称せ
開つ又安房上総へ謝りてのり
熊野三所權現祠 同所より則當寺の鎮守
黒本尊堂 本堂の後蓮池より奥のたよりあり阿彌陀如来の像ハ惠心
體よ向ふく世人呼んて黒本尊と称せり多くの星霜と磨く金泥を
とく変して黒色となるなり此祠ありとも或ハ源九郎義経まおする不

故に九郎の意なりと始參州參子の明眼寺ありと某の色の
辨を以て寺名不充此靈像とほむひく常は念持佛とあり多し
新に宝帳玉扉飾精巧と極む以上浄宗護國篇よ載る平直重月
十六日四月八日同十七日諸人ら
參詣 元和九年癸亥浄建立或云八年なりと樓上は釋迦文殊普賢
の彼岸の中又二月十五日四月
八日登樓とゆふ
安國殿 本堂構の外南の方より四月十七日ハ浄祭礼しく參拜と許さる
人衆來由其障あり是は略す浄別當と安立院と号す
五層塔 同所佛殿の地蒼林の中より涅槃石 同所あり淨影物師
より羅漢石 曼荼羅石 同所あり後藤祐乘得來の鷹門 同所
極樂橋 同所前の溝は架せり
宗廟 浄當家 浄代の御靈屋なり
浄常念佛堂 浄樂門の方より惠照律院と号し浄土律中當山の
条下は詳あり當院上人眞筆の涅槃像の印板あり有信の筆は授与
他の圖は異方丈の後の方より尾州清須城主松平薩摩守忠吉の靈牌を
性壽庵 置故は俗は薩摩堂とよむ側は小笠原監物を始とく列死

五人の石塔あり柳の井といふを同所

南の坂通りよりあり名泉なり

飯倉天満宮 天神谷あり當山の地主神なり昔飯倉の神明も此地あり

別當も茅野天満宮 同前南の方松林院あり

舊跡 山下谷明定院あり是も當山の別院なり明定院前大僧正定月

圓座松 同所は圓山同所は辨財天祠 赤羽門の内蓮池の中島あり

右大将頼朝卿隆念の法花堂安置あり星霜を経る後觀智國師感

得あり當寺宝庫に納めあり其享二年生嘗靈文上人此所は一字と

建一山の持守とあり是も宝珠院別當なり中島と芙蓉洲と号く

此所門より外ハ赤羽門といふ品川への街道なり

子聖權現社 山下谷あり 産千代稻荷 觀智院あり昔ハ普光院

明善檀通上人の 阿加牟堂 東の大門の通り常照院あり

大門 東より向入當山の總門なり 御成門 北の方馬場は相對す此所

涅槃門 切通の上よりあり惠照院は 柵門 山下谷より赤羽門といふ

當寺旧古々貝塚の地あり光明寺と稱す 眞言

瑜伽の密場なり 後小松院の御願は依り草創ありし

古刹なり至徳二年酉嘗上人移り住するの後竟り了嘗

上人 傳通院三月の徳化は歸一寺を改め三縁山増上寺と

號し宗風を轉し浄刹と云 事跡合考は此也三縁山歴代系

今糶町邊中項移り比谷邊後慶長初移り芝云日比谷より芝へ

移りハ慶長三年戊戌八月なり武徳編年集成は慶長三年戊戌去る

天正十八年辛卯平川口へ移され増上寺を芝の地よりあり平川口

比谷古へ地と接せぬ一畝あり

東照大神君 天正十八年始り江戸の大城に入らせり

鼓腹一老幼相携り道路は拜迎し奉る幸は寺門の前路を

通御ありあり觀智國師も是を拜せんといひ寺前より

あり是則比谷の時師の道貌雄毅尋常なりと見え

それよりあり其名を問せし乃寺に入り懇らひ其後嘗

寺を以て植福の地となりあり永く師檀の所契あり

御崇敬あり是を親王に比せし師と一衆興し殿階は昇る

得を殊に以て永式とす今に至る時寺境隘狭なり

得代に任持成この業を今に至る時寺境隘狭なり

大城に接近せしむるは依る今の地に移さる大の資財を
喜捨し殿堂房室に至るまで悉く營建しあひ最宏壯の大梵
刹とす。事跡合考は慶長十年己未本堂於是浄家の宗教一時
勃興し念佛の聲天下に洋溢たり。浄宗護國篇出り慶長十年
今夜祥夢を感て師微笑く云く你其夢を驚け吾買んとく有銅二十
疋を與ふ既ちて翁云く増上寺軒端の留木繫りし人師曰く吉徴あり慎て
人よ候とすなる由浄土高僧傳にあり。抑當山ハ関東浄刹の冠首や龍象の聚る所實は靈山
會上布金紺園あも比まらん數百戸の学寮ハ置りて軒端を輾り支院ハ三十餘宇靡くとも三
餘の大衆ハ常にあふ集る中やも能化ハ一代の法蔵を胸間
貯へ所化ハ十二の教文を眼裡に晒せり三心即一の窓の前
あも五念四修の月を弄ひ事理俱頓の林に中やも実報受
用の花を詠す佛閣の莊麗る七宝莊嚴の浄土も又此と

去る事遠くくすと思はるる

御忌参 正月 涅槃會 二月 誕生會 八月 開山忌
十月 法會 十月六日 同日 五日 逆修 坊主

飯倉

神明宮 同東の方神明町ありあり 江戸名所記等より此谷神明
其舊地ハ増上寺境内飯倉天神の社地なりと云云赤羽の南小

山神明宮の地なりとも 社司ハ西東氏 名所記より往古當社の神
足柄郡より齊藤氏なる別當ハ金剛院と号し其餘社家巫女あり

人招き神主とすと云別當ハ金剛院と号し其餘社家巫女あり

神鳳抄云 武蔵國飯倉御厨 當時四貫文
同書又曰 飯倉御厨 長日 御幣五十丁

東鑑曰 壽永三年甲辰五月三日庚寅武衛被奉
寄附而村於二所大神宮去永曆元年二月御出
京之刻感靈夢之後當宮事仰異他社然者
平家類等在伊勢國之由依令風聞遣軍士之
時若縦雖為凶威之神在御鎮座之事由於祠宮
無左右不可亂入神明御座之事由於祠宮
被仰舍也謂件兩所若荒木四成長神主外宮御分



飯倉神明宮
世上の神宮
と云ふ



安房國東條御厨被付會賀次郎大夫生倫訖爲
一品房奉行遣西通御寄進狀下畧

寄進 伊勢皇太神宮御厨壹處

右志名奉爲 朝家安

寄進狀如件 爲成就私願殊袖志丹

壽永三年五月三日

正四位下前右兵衛佐源朝臣

按入當社と飯倉神明宮と稱し、飯倉の地は、
 此の地は、伊勢皇太神宮の御厨あり、
 武藏國大河土の御厨と豊受太神宮の御厨、
 内あり、その地を、
 其の時、神幣と大牙一枚、
 天降る、又此地の童女、
 其後、建久四年癸丑、
 賴朝卿下野國奈須野の原狩獵の時、
 當社の神殿に寶劍

社記云人皇六十六代 一條帝の寛弘二年乙巳九月十六日

伊勢皇太神宮と鎮座なり 奉る 其時、神幣と大牙一枚、
 天降る、又此地の童女、
 其後、建久四年癸丑、
 賴朝卿下野國奈須野の原狩獵の時、
 當社の神殿に寶劍

賴朝卿下野國奈須野の原狩獵の時、
 當社の神殿に寶劍



一振と納り一千三百餘貫の美田を寄附あり其項繁昌の
 宮居たりし後明應三年伊勢新九郎氏茂小田原北
 城主大森實頼ととしく後威と逞うせ頃是る為に神
 領を掠せし依宮社ハ霧ハ朽風ハ破き奉祀の人も
 なく大ニ荒廢したりと天正ニ至り四海昌平の時
 忝も台命より當社の廢れしを興へし神領若
 干と附せし又寛永十一年甲戌より神殿と修造
 たりありしと社頭奮觀ニ復す依神燈の光ハ赫と
 としく和光の月よあそく利物の花ゆきハ白く深くして
 神威肯ニ倍せし當社の祭例ハ九月十六日なり同日ナリ廿日ハ
 至るの参詣集を商ひ物多き中ゆき
 齋の花を画きし擗割菴ちハ土生薑珠ハ故ハ世俗生薑市又
 生薑祭とも唱へり江ノ名所ハ一ハ神木ハ餅餅菓物多しとあれと
 竹ハ懸と擗く擗割菴と俗ハちきと名つく又生薑と賣りハ元之
 きよりのりゆきと扱とあり
 宇田川橋 宇田川町の大通を横切く流る小溝ニ架せり



高森
稻荷社



今ハ上ノ土を覆ふたふ橋の形を失せ

宇田或ハ
宇多作

小田原北條

家の臣宇多川和泉守といへる人架せしこ云傳ハ

小田原北條
四年以討修理善

朝興北条氏徳小賣り品川表わく戦を云余下ノ氏総朝興とこし首とも

実職ありて後品川の住人宇田川和泉守以下降参の者ともよつけ普清後ん

ころゝ必法をとり東海道驛路鈴ノ長福元年丁丑四月八日大田道灌江戸

うる其後宇多川和泉守長清ハ品川の館に任とあり又元禄開校の江戸鹿子

といふ草紙も昔此所へ宇田といふ刀を墮し多ふ此名ありといへ代燈ともふ

日比谷稲荷祠芝口三丁目西の裏通よりあり

本山方北修験寂静院別當より萬治の頃藍屋五兵衛と

いへる者託宣に依り花洛藤森の稲荷を勧請なせしや

鳥森稲荷社幸橋より二丁目南の方酒井下野彦郎の北比

横通よりあり往古よりの鎮座といへとも年歴来由共詳

なすなり元禄開校の江戸鹿子といへる草紙も天慶年間藤原

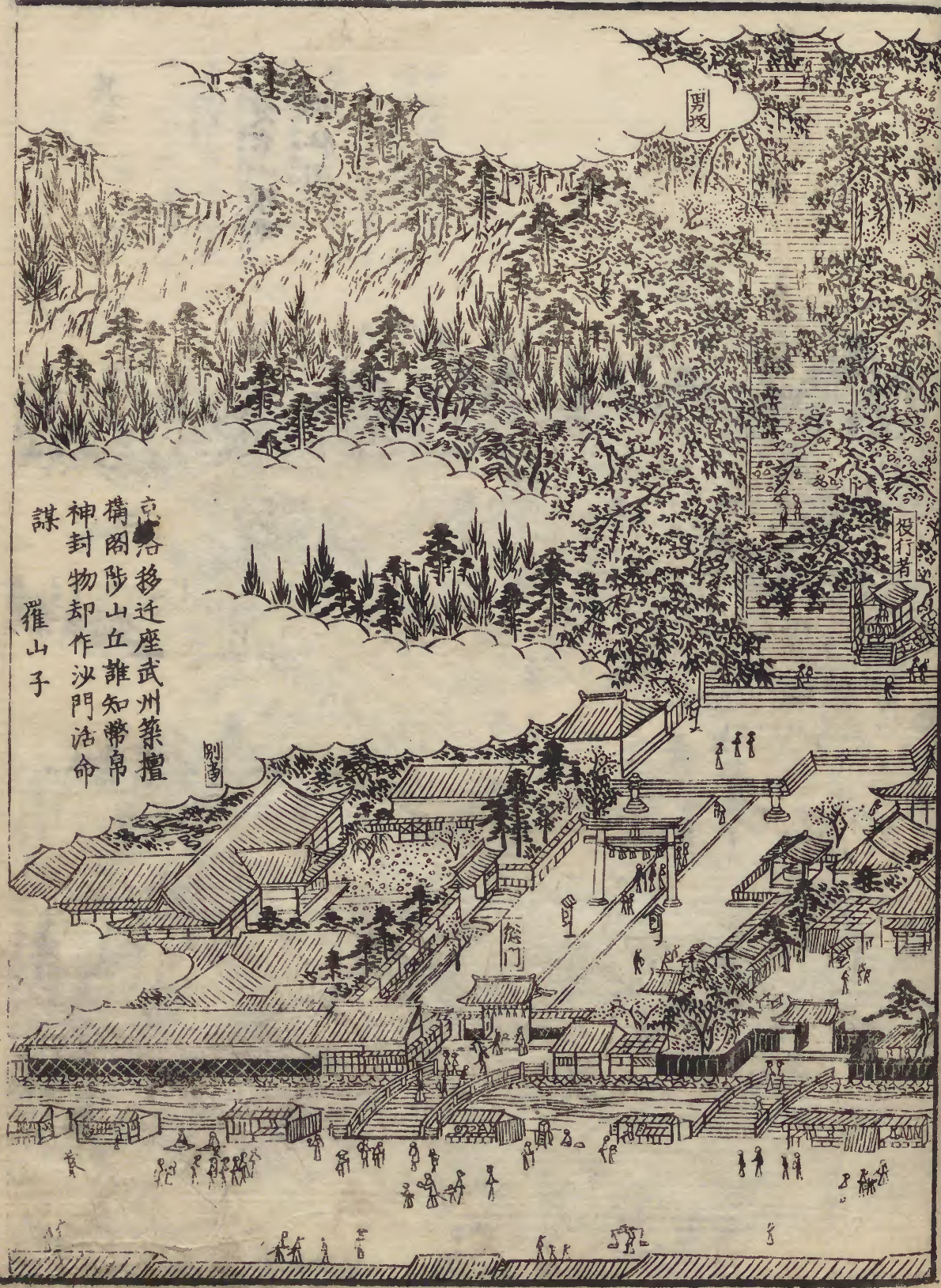
あるなり元禄開校の江戸鹿子といへる草紙も天慶年間藤原



愛宕下
真福寺
薬師堂

此次三丁と因
愛宕本社
至とと後
なり

櫻川 同所愛宕の麓と東南へ流る溝川とあり名く新
著聞集は昔虎の門の辺より愛宕の辺迄悉く田畑あり
畔は櫻樹幾株ともなくあり其中を流る瓦櫻川也
下流は宇田川橋のたもと流る又三縁山よ
摩尼珠山真福寺 櫻川の西岸は傍ひくあり新義の真言宗
中より江戸四箇寺の一員知積院の觸頭なり當寺本尊
薬師如来の靈像弘法大師の作なり慶長の頃甲州の領
主浅野長政當寺中興照海上人として自らの等身は薬師
佛の像を手刻せしめ件の靈佛とハ其胎中ハ籠まると
毎月八日十二日八縁日
愛宕山推現社 同南は並ぶ世俗城州愛宕山は同一と之を
自ら別かり本地佛を勝軍地藏尊なり行基大士の作
なり永く火災と退けしめの守護神なり樓門の金剛力士ハ



京洛移遷座武州築檀
 構岡陟山丘誰知帶帛
 神封物却作沙門活命
 謀
 羅山子



愛宕社
 總門

其二

其三

山上
愛宕山権現
本社園



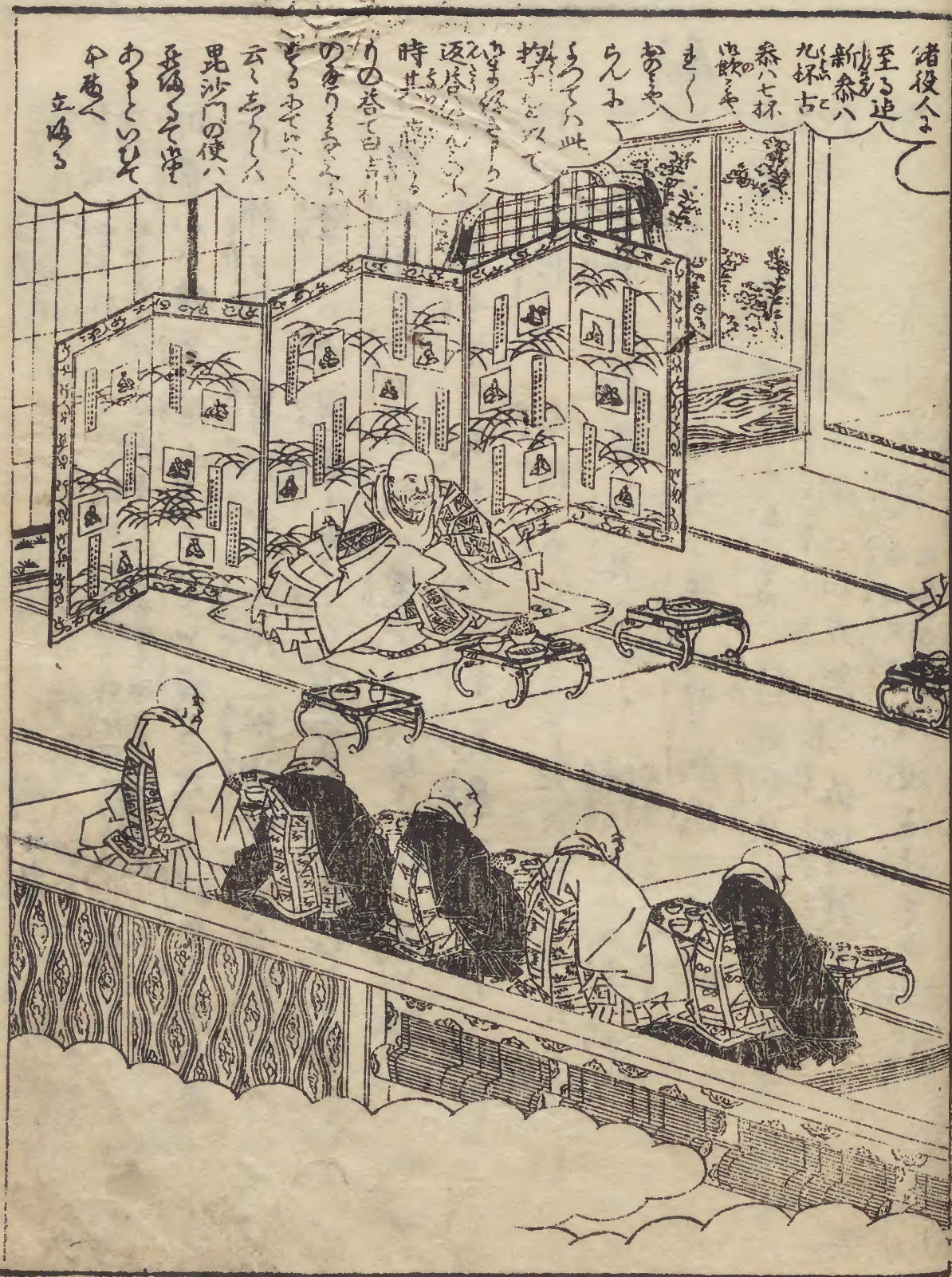
宕山高倚勝軍宮
晴日登臨積水東
江樹千里連關下
海雲一半傍城中
祇憐精衛仍含木
誰識鳴謁忽擊風
羞殺魚鹽都會地
治生無似陶朱公

服元齋



運慶の作同二階の軒一掲一愛宕山の三字ハ智積院推
大僧正の筆なると別當圓福教寺ハ石階の下ニあり新義の
真言宗江戸の觸頭四箇寺の隨一なり開山を神證上人と
號と二世俊賀上人と云々當所真福寺並ニ當寺と云々
神證上人字を春音といひ後ありて春香と号し下野の人なり姓を
盛谷氏母ハ春音の城ハ遍照院と号す今の圓福寺是なり金剛院普賢院
天年終ニ春音の城ハ遍照院と号す今の圓福寺是なり金剛院普賢院
滿藏院鏡照院壽挂院等々六院あり俊賀上人字ハ圓精と号し野州
西於邑の人姓ハ越路氏なり宇都宮弥三郎頼綱ハ俊賀父ハ伊勢守近律神
祠ニ祈す庶す其始下妻の圓福寺ニ住を然る其項下結城の元壽上州
松井田秀等一世の豪俊なり俊賀上人とあはせ新義の三傑と稱せし
元和五年俊賀上人愛宕権現の別當ニ命ぜられ共ニ圓福寺の号と云々一宇と
關々め多し永く大法幢と樹大法鼓と擊夏冬廢る事あり終ニ檀林職と
なる學徒業々々々々々川のや起る實ハ江城檀林の権輿
縁起曰天平十年戊寅行基大士江州信樂の辺行化の時當
社の本地將軍地藏尊の像を彫刻しあひ後安部内親王
奉_{弟四十六代}孝謙_{天皇の御子なり}親王則彼地ニ宝祠を營々々是と安置
り_{其跡とも今}然る_ふ天平十年壬午の夏 台棋泉州と

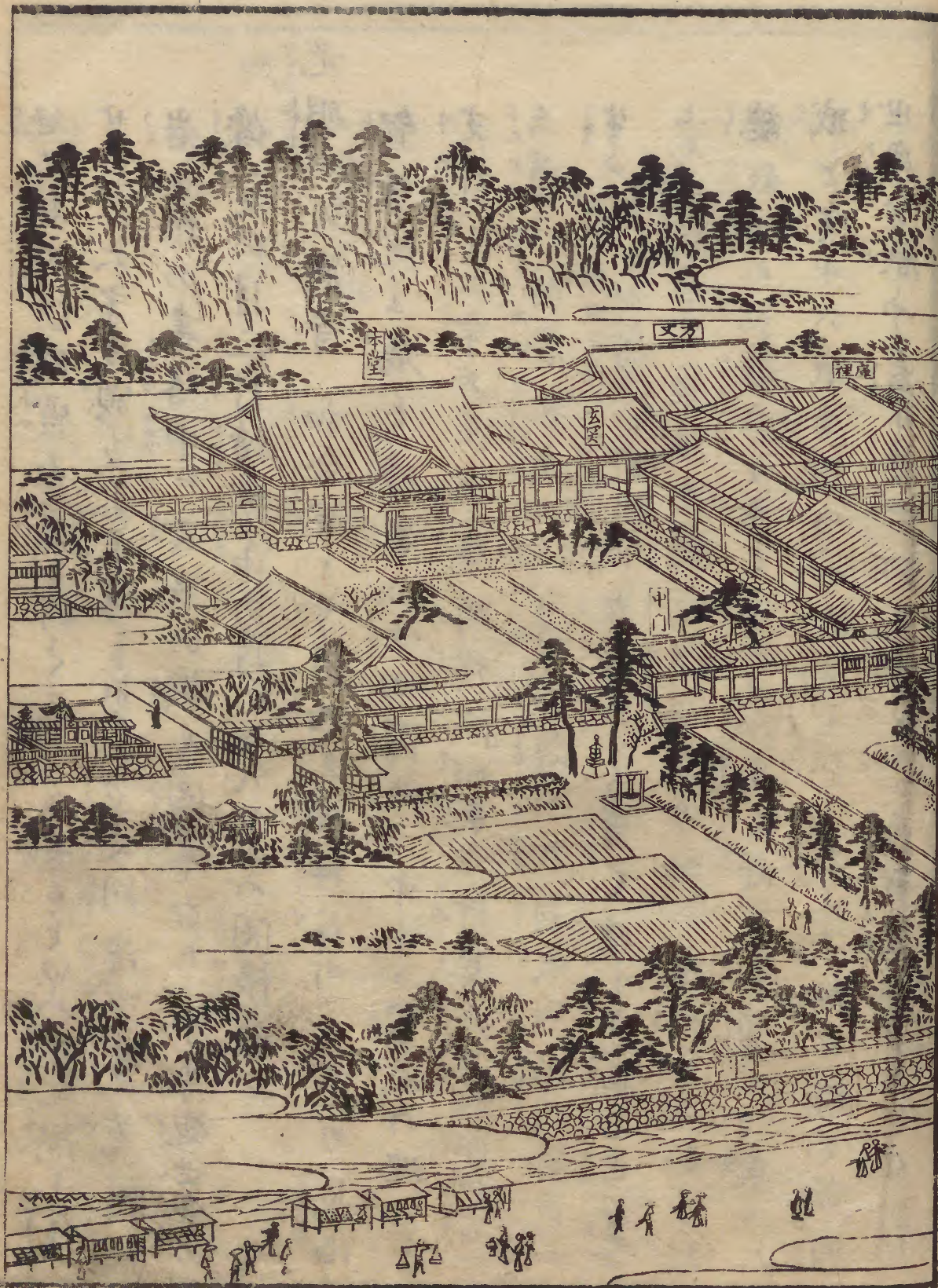
發しあひ大和路より宇治を經く江州信樂に入せ賜ふ此時
多羅尾四郎右衛門といふ者の宅ニ舎らせらるる頃あり
此像と獻て多羅尾家講子左京進光俊初く多羅尾と号し
光郷江州信樂と鎮_{光郷}多羅尾_{四郎}左衛門_{光俊}其子_{四郎}共衛
あ_{光郷}四郎_{共衛}光郷_{入道}道_道道_道道_道其節同國磯尾村の
沙門神證とあを供せし此靈像を持して東國ニ赴あふ
爾より 御出陣毎ニ神證と云々此勝軍地藏尊を祈念
せ_ある_遂慶長八年癸卯の夏 台命よよの同庚
子年石川六郎左衛門尉當山と開き假ニ堂宇を造建し
あひ其後同十五年庚戌本社と始悉く御建立元和三年
丁巳同國豊島郡王子邑ニ於て百石の社領を附しあふ
と云々
修_慶長_{八年}九月廿四日貴賤の赤詣を信_州清_州志_州同_名所_の法_と
又_後安_置す_慶長_の頃_に多_美濃_守の家_臣都_築某_とつ_る人_の勸_濟也



諸役人
 至る連
 新参ハ
 九杯古
 参ハ七杯
 出飲
 せし
 おぢや
 らんお
 うてん此
 抄子
 返答
 時其
 りの巻
 の巻り
 云々
 鬼沙門の使ハ
 手編
 あま
 立海



愛宕山福寺毘沙門の使ハ毎歳正月
 三日小修行女坂の上愛宕岩とつて
 若肆のあまし回例を勤む
 この日寺主と始と支院ありも
 出頭して其次第あり座を請け
 強飯を餐ま半小至る頃此毘沙門
 の使と称する者麻上下を着し
 長き太刀を佩帯を差添又
 大なる飯を杖お突初春の
 飾り物みて兜と造り是を冠
 相隨よりの三人共本殿より
 男坂と下り四福寺
 小入て此席小至り
 粗机やありて行
 飯をとりて三度
 魚板をつまみ
 して曰
 まうりせらる
 者ハ毘沙門天の
 内使院家後者
 をせしや寺中の
 面長屋の
 兩化も勝手の



青松寺

萬年山上荷青松
盤結高分坐似龍
知是抱珠眠更穩
彩雲飛送下堂鐘
南郭

遷され再び威靈あるふより又るふ安きとて金地院と書
せし三大字の額を水雲写とありて方丈同津漢筆薦福殿
岩元雄の書塔中二玄庵の額も同筆あり本尊觀世音の
像ハ大の月二月續る中の月の十八日ハ閑帳あり

光明山天徳寺 扣合院と号し西久保神谷町あり花洛

智恩院ハ属を浄家江戸四箇の一巾く紫衣の地とあり

支院十七字あり本尊阿弥陀如来ハ行基大士の作閑六

三蓮社縁譽称念上人なり師諱ハ吟翁武州品川の邑小

生る父と藤田左衛門尉道昭と云九歳より甫て増上寺弟七世親譽

上人は後つゝ難深を聰明絶倫なり師の遷化は及び北

總飯沼の弘経寺に至り鎮譽和尚は謁し浄土一衆の大

戒を受十六歳岩附の浄國寺ハ住一夫は法輪と轉志猶

世塵を厭うる後古郷に歸り天智庵地或ハ又と草創也

今の天徳寺是なり天文二年の草創とて先師親譽と云く御山祖と

師道世の志深く一包破笠を携へ錫と荷ひ洛の知恩院

至り傍に一精舎を建く住は是と一心院と号し一心院ハ念佛三昧の本寺也

昼夜不退し常行念佛を修し新し念佛三昧の法則を製

し永世の標準とて今諸國厭悠の道場此法式を以て定矩

とす花洛市原野の専称庵上嵯峨の称念寺下嵯峨の正定院挂の極樂寺田井の會念寺淀の念佛寺等と草創せり少くも此の

の道場とす今世間用ゆる所の二連數珠ハ師の製せり

化壽四十一とす此念珠を用ひ

城山 西窪土岐山城侯の藩邸の辺を云土俗熊谷次郎直實の

城跡といひ傳ふるも誤なり昔熊谷氏の人が此告毛杯を

一地名なり同所神谷町あり石橋を熊谷橋と号す

故ありとれと今傳説詳なり

菊岡沾云此所ハ昔麻布殿と云の出丸の地なりと云

太田道灌城跡 或ハ番神山と号シ西窪仙石家茅宅の地なり
紫の一本山 又昔此地小堂
今土取場となり 又昔此地小堂
 あり土佛の釋迦を安置シ法華堂と号ク後豆州玉澤
 法華寺の日朗上人持念する所の墨画の三十番神の画影と
 携来スあまき 楮人と结缘けつえん せ然しか 小田原北条氏後ニ社を建ク
 彼番神と勸請くわんじゆ 故ニ番神山と号シ其画像ハ後京師に
 移うつ せとあり

西窪八幡宮 同所天徳寺裏門より南の方三町程 飯倉町
 一丁目よりあり 別當ハ天台宗中ちゆう 東叡山の末八幡山普門院
 と号シ西窪の鎮守中ちゆう 旅所ハ小山あり 相傳あひつた 當社八幡
 宮ハ寛弘年間かんこうねん の鎮座なりとシ慶長五年 関原一戦の時
 崇源院殿すうげんいん あり 其軍御勝利と御安全との御願書とあり
 らと別當秀圓御祈禱修行ごきんごう ありとシ其奇特ありと云ハ

西久保八幡宮



寛永十一年甲戌二月終つひ宮社みやじや御建立おんたてありしとなり祭禮まつらいハ
 毎歲まいさい八月十五日やうがつ十五日なり

飯倉いひくら 西窪にしくぼの南みなみと云いふ此地このちハ往古むかし伊勢いせ太神宮たかみけのみやの神厨かみぐらの地ちと

故ゆゑ其その所ところ饌料しんりょうの稻いねと扱あつかひ倉くらと唱なづへり

地名ちのみ呼よびよるるなり

地ちと領りやうせり北条家きたじやの領りやう御帳ごちやうにいるるなり

所ところの北条家きたじや人ひと遠山とほやまた衛門ゑもん大夫だいつ政元まさもと二年に江戸えどありし五十五貫ごじゅうごくわん六百八十五文ろくはちじゅうごぶん

其その地ちと彼か寺てらに寄附よきつせり地ちの御帳ごちやうにいるるなり

熊野くまの権現ごんげん宮みや 飯倉いひくら町まちありし或人あるひと云いふ養老やうらう年間ねんかん芝しばの海濱うみづみに

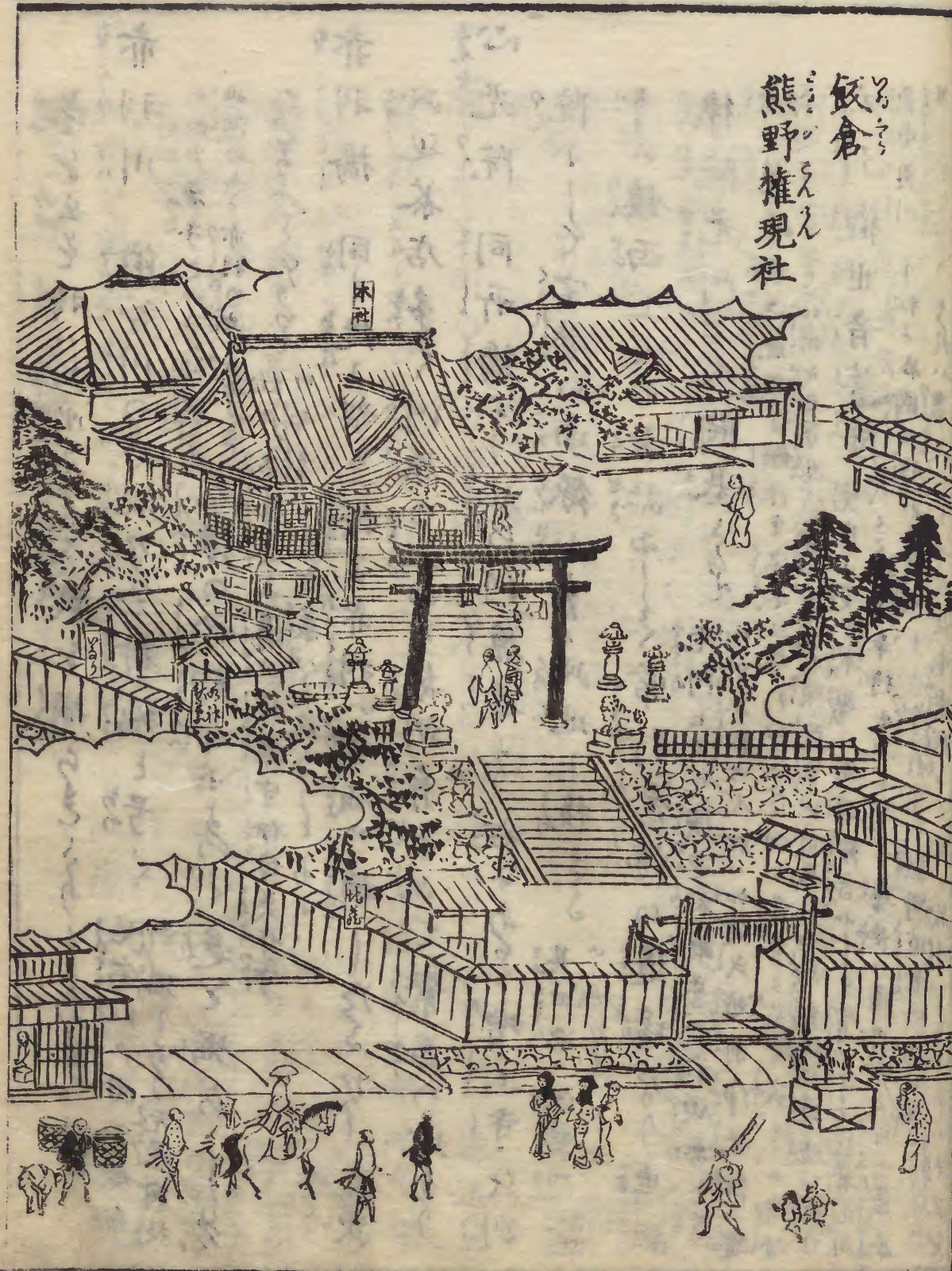
勸請くわんきやうありしと遙とほの後のち今の地ちに移うつりしと別當べつたうを三集山さんじふさん

正宮寺せいみやうてらといふ天台宗たいたいしゆの東叡山とういせいざんに属まゐせり

勝手かて原はら 工器町くわうきまちより赤羽あかばねへゆる廣小路ひろこうぢの辺へだちより昔むかし八三田やちさんでんの

方かたへうけく廣莫ひろはくの原野はらのなり

飯倉
熊野権現社



勢を出し時、此所より人数を揃らさるりしと云ふ

赤羽川 渋谷川の下流なりと新堀と号く延宝江戸國は麻布新堀とあり元禄間板

の江戸鹿子といふ神紙は元禄の始釣命小あつて是と堀らし久

此河の上赤羽の池と云ふ 江戸名勝志は溝口信濃守伊達美作守

赤羽橋 同一流に架を按は赤羽ハ赤埴の轉したるなりん歎

此辺茶店多く河原の北を毎朝有市立て繁昌の地あり

心光院 同所橋より北の河原道より右ふあり増上寺此別

院より宝曆の頃塚山より此地に移さる其旧地は榎門當

寺ハ鎮西上人の古蹟なり常行念佛の道場なり惠照

律院光阿上人開基なり光阿上人は横連社總管心若頑愚

流は投し新流頭は嗣法を宝永三年乙卯八月晦日當寺は松本

本引觀世音菩薩境内は安を本尊ハ馬頭觀音なり

長重興州本松は在國の時わす日城下は長重興州の馬に乗

道着と唱へ修大將軍家へ献せし布一端を後輸の益手

両方よりむきひ附ゆの彼布一文字は翻る故に改む布引と命せしれ愛

の石塔と本尊として馬の觀音は崇むるなり 宝曆の頃寺と共に此地

竹女水盤 新著聞集に云江戸大徳馬町佐久間勘解由ら召仕の下女たりハ

水盤の角は網を置く洗ひ流しの飯とけ共溜りしを自ら食料

常は称名怠るなり 後増上寺境内に埋めり石塔を建たり其後又

芝浦 本芝町の東の海濱をり芝口新橋より南田町の邊迄ハ

惣名なりと上古ハ芝と竹柴の郷とありと後世上略して柴

このを呼来しと又文字ハ芝ハ書改たりとせ更級日記は竹柴の

猶三田海寺の条下は詳なり南向亭云芝といハ彼地の古老の號ハ海

近き所ハ柴と趣海苔の号なり 後芝ハ改作なりと云く按は此説是なり

此地と雜魚場と号け漁獵の地なり此海より産せしと芝

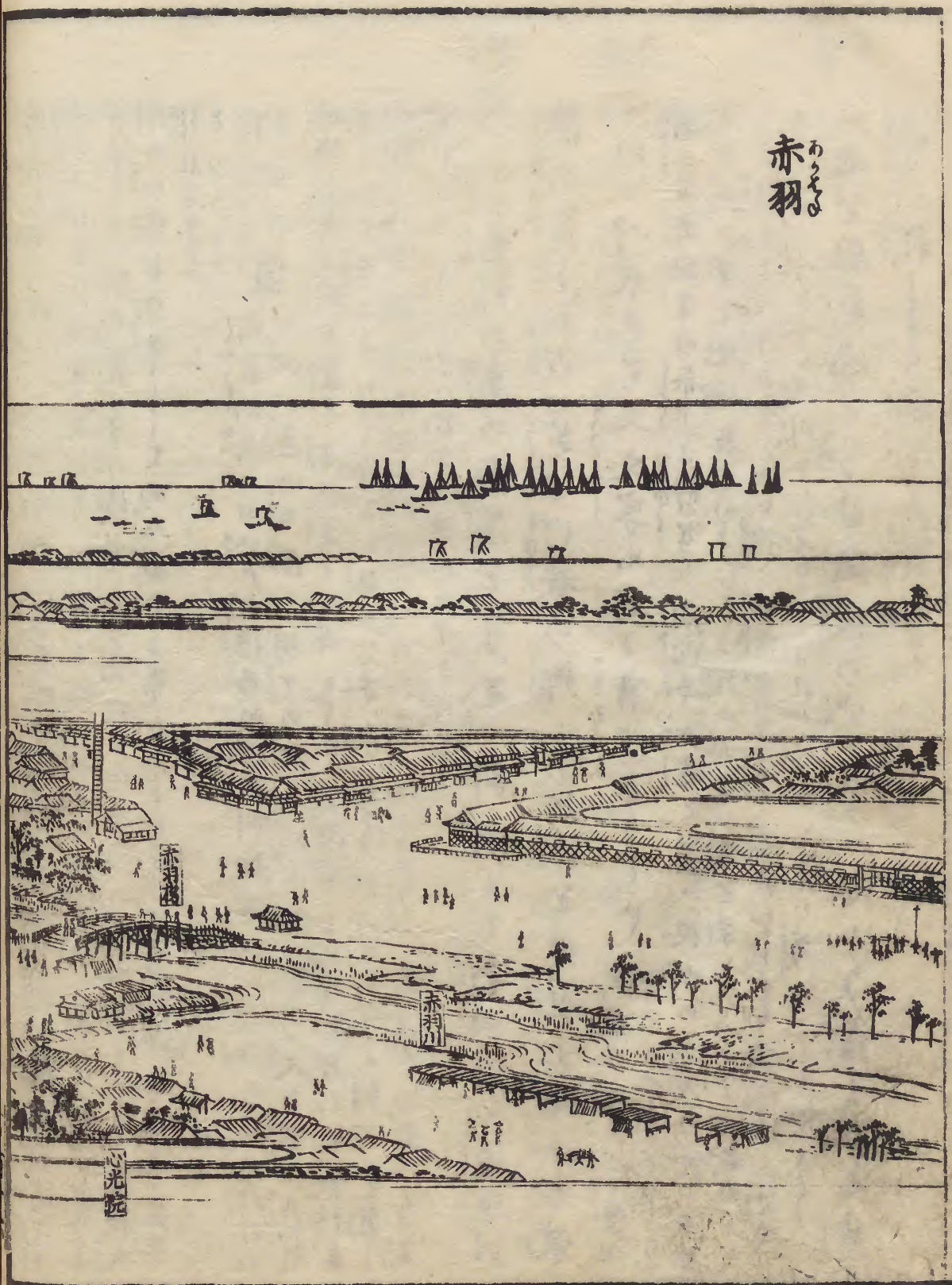
看と称しと都下ハ賞せしと

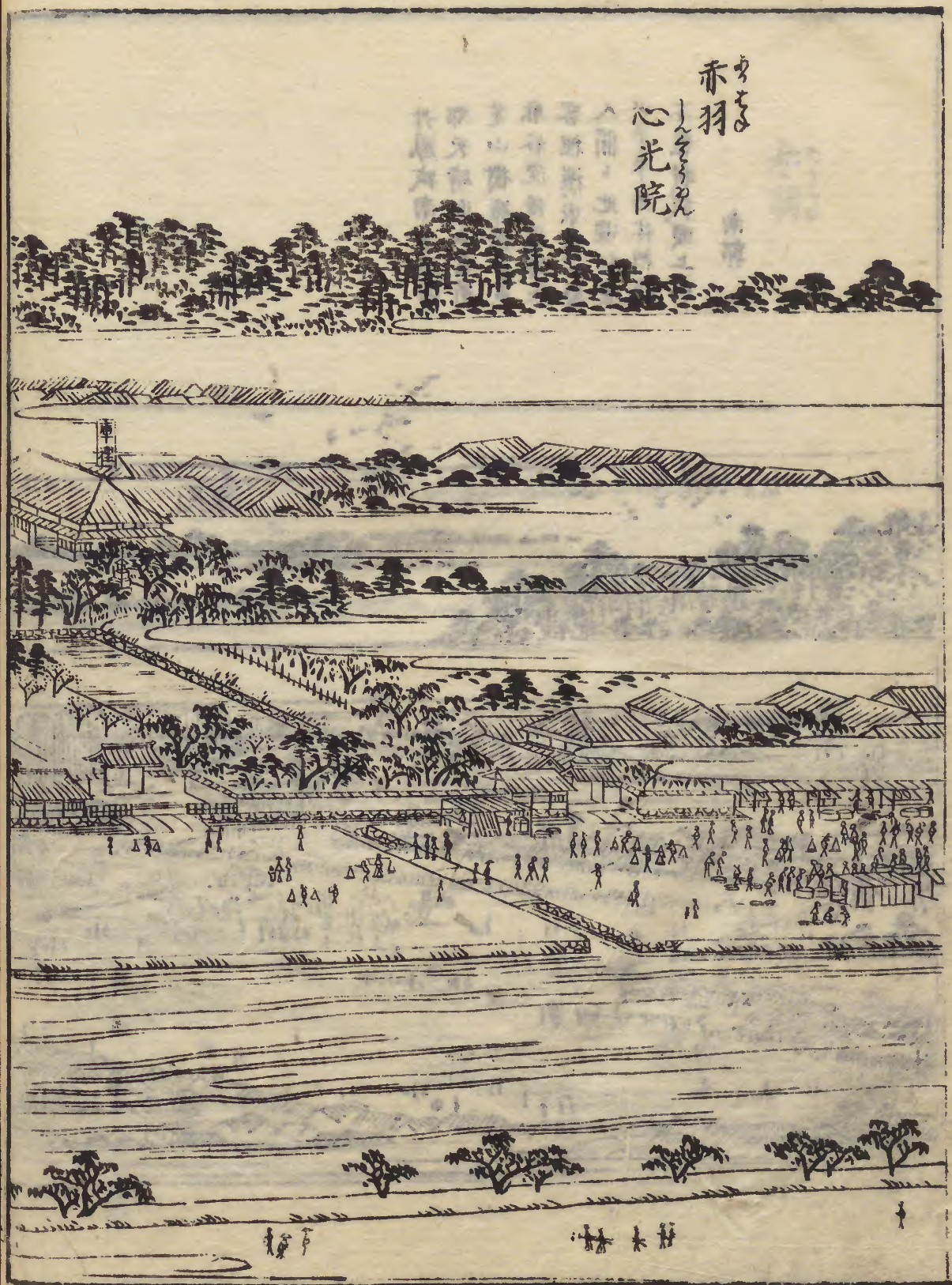
丹鳳城南赤羽漢
 郊天晴近五雲新
 芝山樹擁銀臺色
 麻谷流侵碧海春
 客裡攜家羞白髮
 人間卜地避紅塵
 以平車馬休相汚
 宋罷聊裁頭上巾

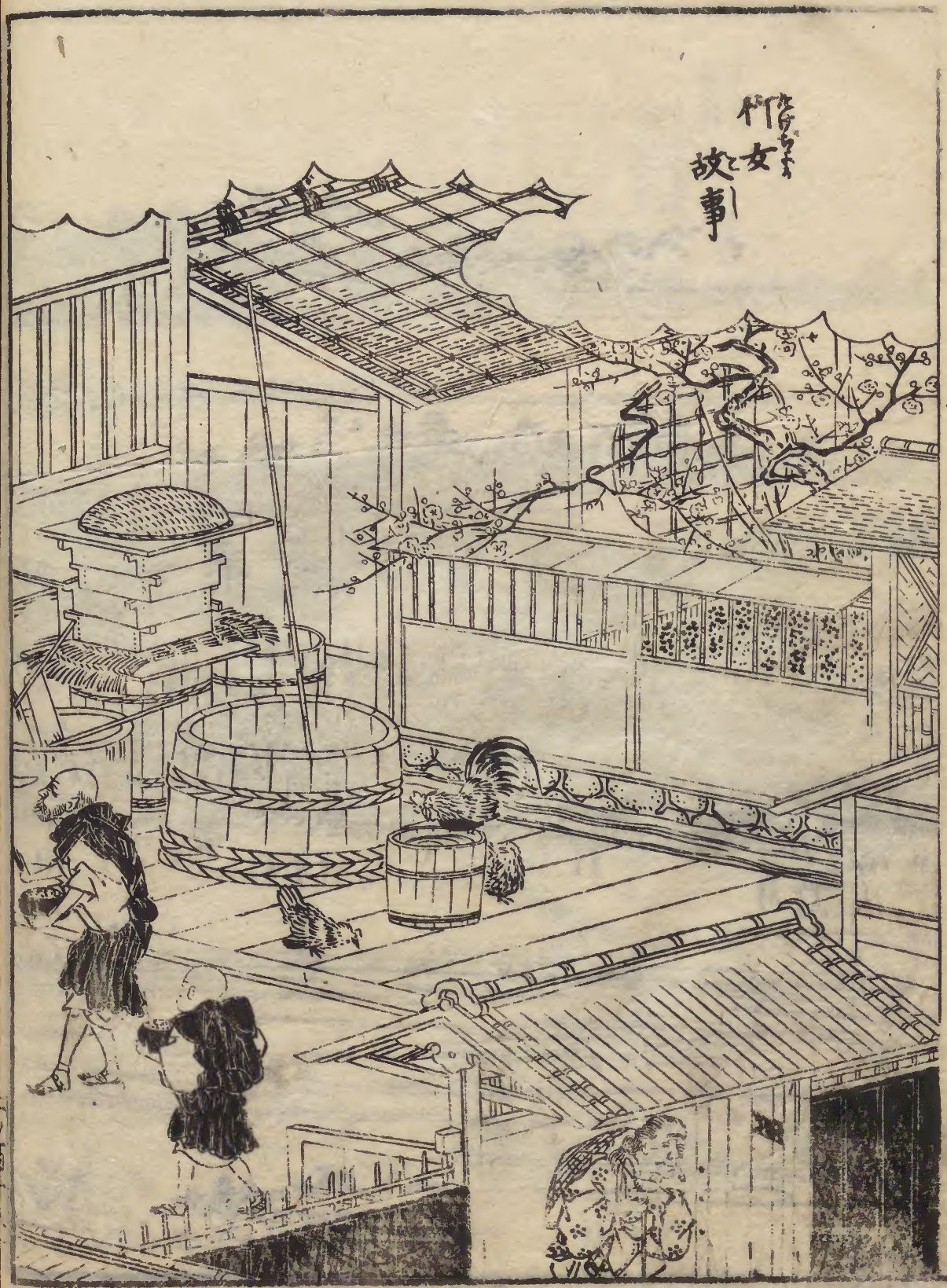
南郭



赤羽 あかばね







竹
女
故
事

平安記行 文政十あまのり二年は頃水無月のをりあつて土さく
 さけくとう旅人のねりけりめせ避暑の床をさるんて
 都ふまうのほりね中畧芝といふ所を過るとて

露一々道の芝生と踏ちり一駒ふ任まらあをくれのを 太田道灌

回國雜記 芝の浦といふ所ありけり塩屋のりうらなひき

て物淋しき塩木を舟と見えて

やうり藻汐の煙名を立舟にこりつひ芝の浦人

道典 准后

此浦を過くあり井といふ所ありて云く

江戸ありて 芝といふもの候夏さし記

梅翁

御穂神社 同所本芝通りより西の横町ふあり本芝此

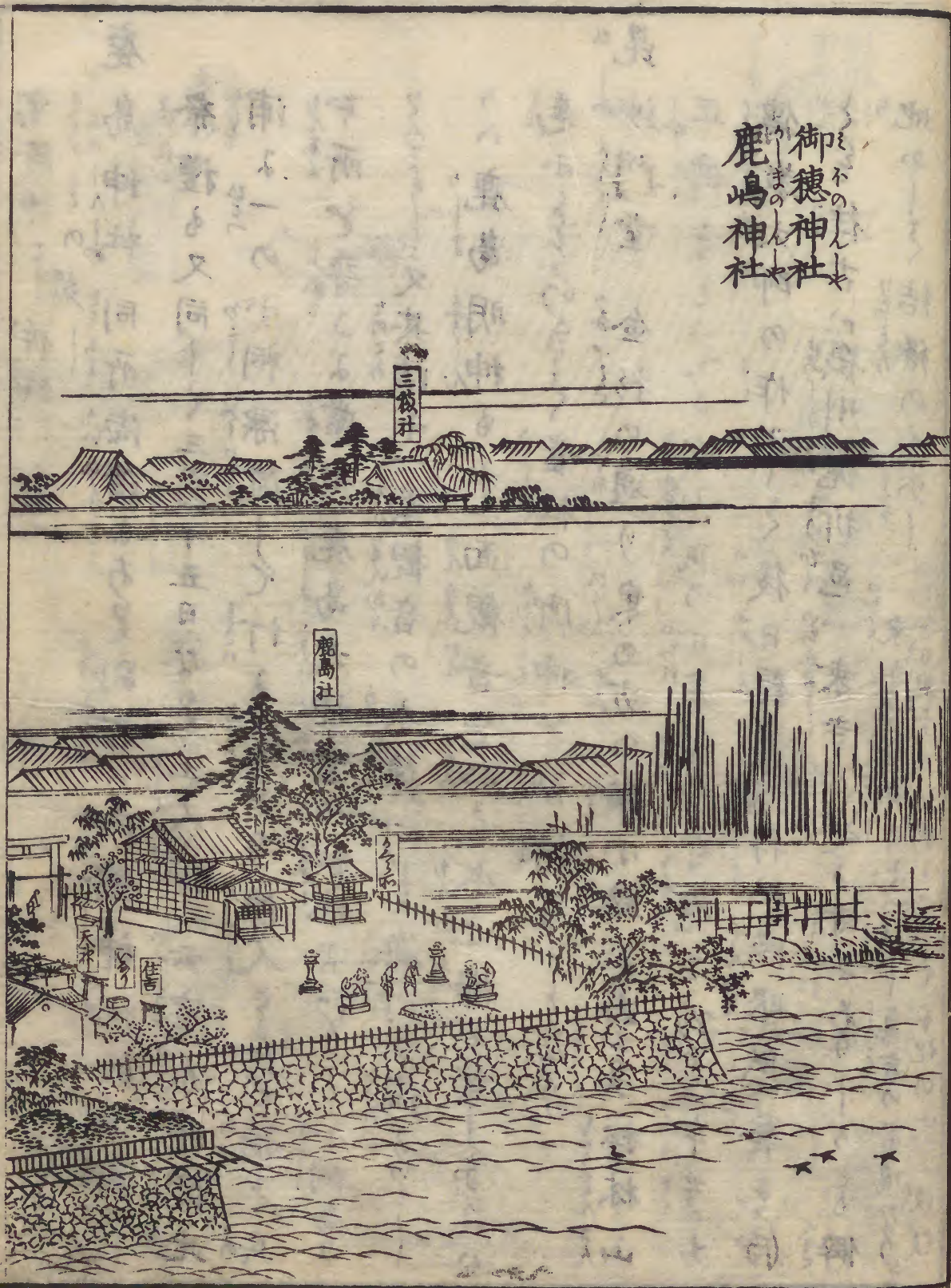
産土神やま祭禮ハ三月十五日なり別當は正福寺と

号す天台宗にて東叡山に属を傳へ云往古駿河國三穂の

海人此浦ふ来り住む故は古郷の御神あれとて文明

十一年庚子のとこふ當社を勸清せしやりの祭神

御穂津彦御穂津媛等ハ二神なりといふと 土俗當社と



御穂神社
 鹿嶋神社

鹿嶋社

三穂社

守護神と祈願

鹿島神社 同所海濱あり別當ハ御穂神社に相同一

祭禮も又同く三月十五日なりと土人傳へ云寛永年間此

浦一の小祠漂流して汀止るあり漁人こもと揚ぐ其

本所と尋るよ常州鹿島大神宮の社地ありり小祠あり

又其頃十一面観音の木像同一海汀に流すあり

ハ鹿島明神も十一面観音と云く本地佛とせしあれハ

是れもそのまゝ當社の御神を勧請せしとあり

毘沙門堂 金杉の通り東の方の横小路あり松林山

正傳寺といへる中山沓の日蓮宗の寺境あり本堂あり

傳教大師の作なり後日親上人再び點眼供養あり

とを往古ハ攝州梶折邑一乗寺といへる寺ありりとも僻

地中結縁の人数一乗寺ハ金仙寺といひ真言の密場なり

毎月寅の日
貴職群集
しつゝひ茶
くあり



金杉
毘沙門堂

奉獻毘沙門天王

出雲川宮北

依く寛文の頃衆生化益の爲日榮上人より移し
靈験感應の著しき寺記に詳なり故に恭詣の貴賤日
多く寅日を殊に群集せり正月朔の寅日恭詣の人大方ハ其の神明
洛北の鞍馬山の毘沙門天へ正月朔の寅日詣りて
燧石を買ひ家土産とこれを奉りてこれに準じて日親堂
靈験著し

田中山西應寺 金杉の通より西の裏より
宗中三縁山に属を支院三字あり本尊阿弥陀如来
の像ハ慧心僧都の作なりと云傳ハ應安紀元戊申の年明賢
上人草創を 明賢上人ハ應永五年戊寅黃鐘
十日遷化を年八十六歳といへり 天正の頃 大將軍家
當寺に駕を枉せられ寺領御寄附ありしハ学徒朝夕
の助寛中々々学道盛なり又當寺十六世存問和尚一
宗此碩学中々々當時法門の龍象学道の麟鶴なり
これハ 大將軍家深く崇敬よりくつあり 台余に

依く一夏の間法幢と建一百餘人の衆僧ハ宗風の法意を
示すべく念佛三昧他力往生のとく日々弘まらり
三田 或ハ御田及び其多より作ると 古神領ハ寄附地を所田
と書る由古老の説なり

和名類聚鈔云 荏原郡御田云云
武藏國風土記殘篇云 荏原郡御田郷或其多
公穀三百六十七束假粟百三十九丸貢松竹蔵□
等亦有諸禽允大膳或木工寮云云

按此地を渡辺の綱と云ふ誤なり或人云此地ハ三田家の
領地也三田氏累世に居住を三田家譜に三田三河守其子駿河守
綱勝武州三田に傳を代へ綱と云ふ字を名と依後人渡辺の綱と
混交へて誤る故と云く渡辺系圖ハ云源次充武藏國足立郡其田
郷に配せらるるあり三田と云ふなり三田其田同訓なる故に混雜
てける附會の荒と云はまらるる也此處に綱と云ふ字ハ其田の
記と号するものあり此處に綱と云ふ字ハ其田の
永祿二年小田原北条家の所領役帳に大田新六郎知行三田内寺
衆計分同其禰寺屋分又島津新七郎知行三田坂間分及中村平次左衛門
知修三田高嶺寺院本任坊寺領ハ同所より惣領の地等を配せしと見
えり

綱坂 同所松平隱岐侯と會津家との藩邸の間を寺町へ

小山神明宮



下る坂と号く惣鹿子渡辺坂とあり菊岡沾涼云又同所有馬
 家の藩邸北南の坂と綱う此所ハ其田武藏守の居城跡なりと綱う産湯水
 と云ハ同所肥後彦の園中綱う駒繫松と称せらハ隠岐彦の
 藩邸綱塚ハ同所功雲寺の境内あり

按ニ窪三田ハ綱生山當光寺と号く一向派の寺あり渡辺の綱う出生の地
 ナリと云ハ綱生ハ又三田ハ藩邸の神邸とも渡辺の綱う守護神ありと
 云へく此辺綱生ハ綱生山當光寺の神邸とも渡辺の綱う守護神ありと
 ありて綱生ハ綱生山當光寺の神邸とも渡辺の綱う守護神ありと
 其畧ニ云ク武藏國荏原郡淡谷莊其田邑ハ源綱う陳田園の記と云
 存を塚上ハ綱生山當光寺の神邸とも渡辺の綱う守護神ありと
 あるものハ明曆四戊戌の夏會津源公此地を賜ひ別荘と号し綱生
 塚と稱せらハ蓋ハ此地の勢を取り古の土と尚々綱生山當光寺の
 照合せらハ綱生山當光寺の神邸とも渡辺の綱う守護神ありと

小山神明宮 同所有馬家と黒田家の間小高き所にあり
 神幹ハ雨寶童子別當ハ天台宗不動院と号ハ此所を
 飯倉神明宮の舊地とせらハ誤なり

三田
春日明神社



春日明神社 三田一丁目よあり別當を三笠山神宮寺と号す

和州三笠山春日四所の御神を鎮座なり

三田の産土神や例祭ハ毎年九月九日修乃を傳へ

云當社ハ村上天皇天徳年間武蔵國司藤原正房任國

の頃藤原氏の宗廟とあり此御神と此地に勧請せし

むるとあり其後文明の頃法印慶賢中興を本地佛と

十一面觀世音なり弘法大師の彫造なりとあり慶賢瑞

夢より感得の靈佛なりといひ傳へ

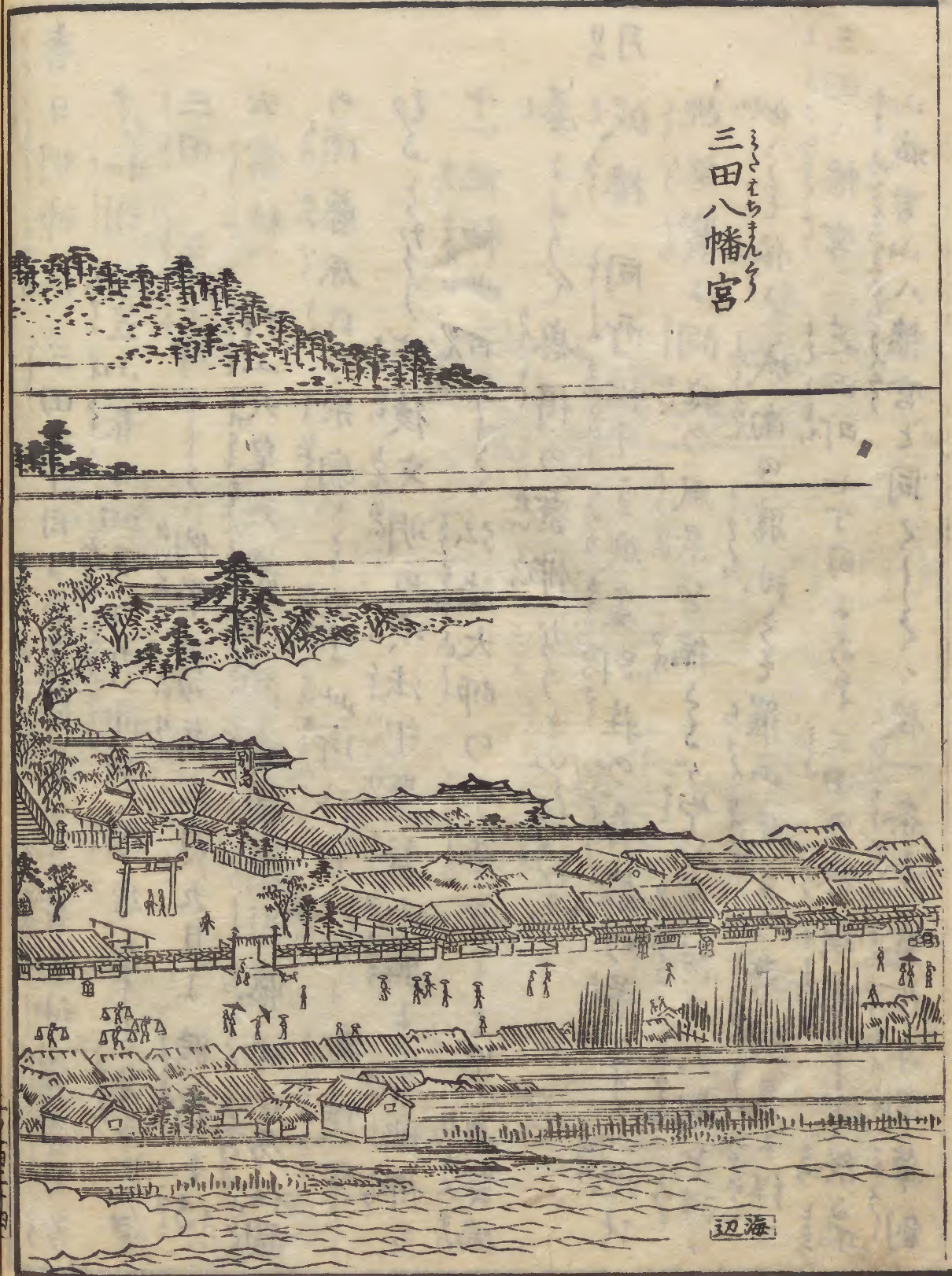
月波樓 同所松平主殿侯別荘の看櫓の号なり此地に

眺望實に同庭の風景を縮く岳陽の大觀と摸し

似く依り城南の勝地とを羅山先生の東明集に詳し

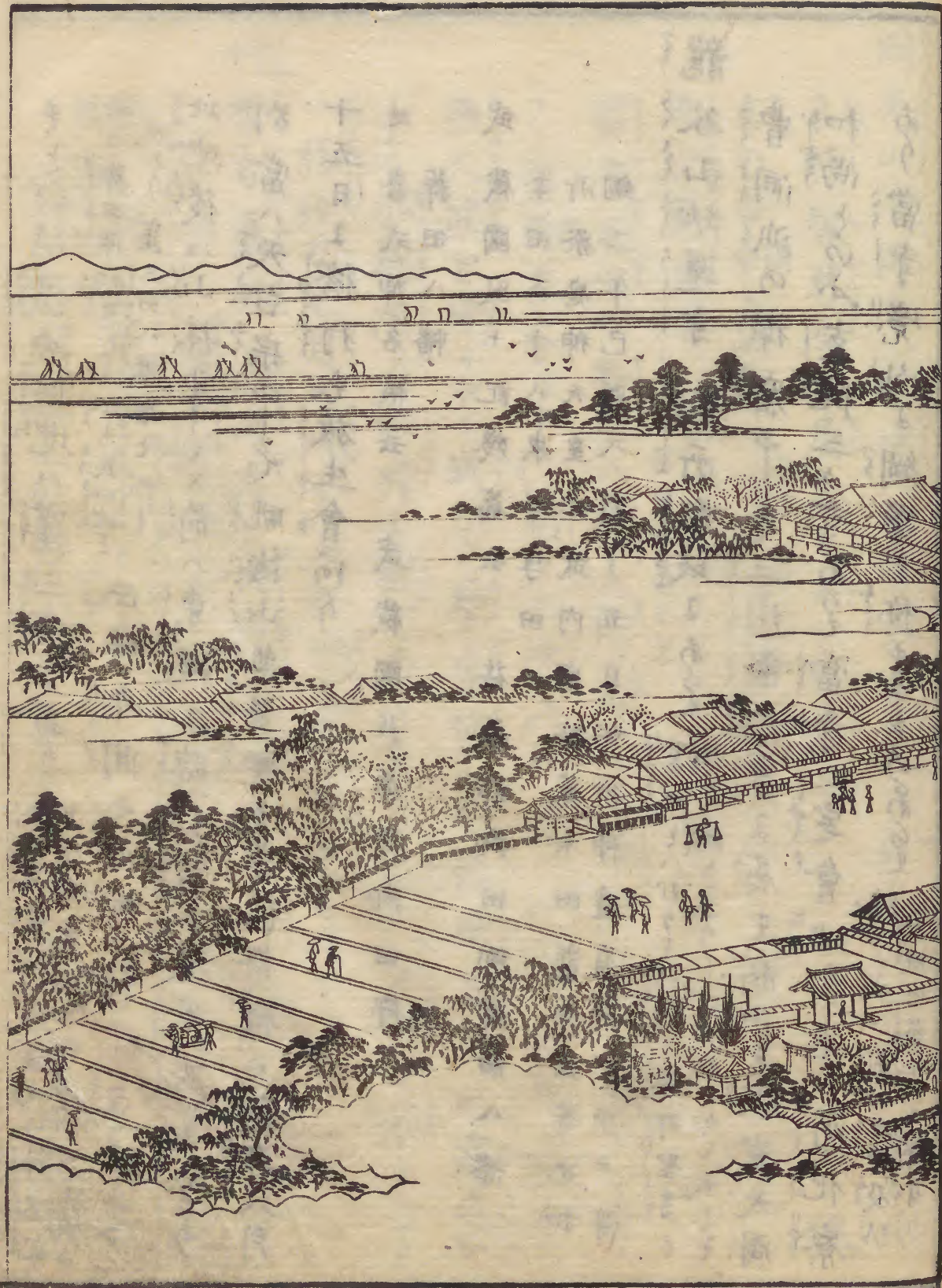
三田八幡宮 芝田町七丁目よあり三田の惣鎮守なり祭事

山城男山八幡宮と同く後一條帝寛仁年間草創



三田八幡宮

辺海



まといひ傳ふ旧地ハ窪三田ヨあり

土人云當社ハ延喜式ノ神名記

所ノ神田神社是ナリ今モ其旧地

正保年間今ノ地へ移しなるといへり

此地後ハ山林中へ前ハ東海ニ臨むあふ風光秀美なり

別當ハ天台宗中へ眺海山無量院と号し祭禮ハ隔年八月

十五日ニ修行を放生會あり

延喜式神名帳云 武蔵國荏原郡御田郷

武蔵國風土記殘篇云 荏原郡御田郷稗田八幡

圭田五十八束三字田 所祭應神天皇也武内宿禰荒木田襲津彦等也和

銅二年己酉八月十五日始行神禮有神戸巫戸等

龍谷山功運寺 同所聖坂ヨあり

聖坂ハむく此地ハ高野聖多ク

曹洞派の禪窟中へ三州龍門寺ニ屬し関山を黙室天周

和尚とのみ支院三ヶ寺あり當寺ハ定會地ホリ所化察

あり當寺境内ニ綱塚と称するものあり

周光山濟海寺 聖坂の上道ヨ左側ニあり浄土宗ニ

京師智恩院ニ屬し上古ハ竹柴寺と号して魏たる真

言の古刹なる中古荒廢ニ逮ぶ依り法譽上人念無和

尚中具を沖より目當の燈籠あり

當寺庭中の眺望ハ實ニ絶景なり房總の群山眼下ヨあり

雅趣をかくし朝夕ニ漂ふ釣舟ハ沖ヨ小く暮て數點の

漁火波を燒くも疑はる羣芳發して緑陰深く風露爽小

氷霜潔し四時ニ觀とあり風人の眼を疑しむ

一勝地なり月の岬とのみ此辺の惣名なり

竹柴寺舊址 濟海寺と同隣の土岐侯の邸地其舊跡あり

といひ傳ふ 山岡明河云按今ノ地ハ海邊ニあり岡の上ナレハ更級日記

後この地ニ武蔵國ヨありぬ珠ヨと云く昔ハ妙ありしを

更級日記云 今ノ地ニ武蔵國ヨありぬ珠ヨと云く昔ハ妙ありしを

白く波もたなくこぼりの様も紫生と聞野も蘆荻のこ
高く生て馬に乗く弓もくる末見えぬと高く生茂りて
中を分行ふ竹柴といふ寺ありて遙よいさろやういふ
所は樓の跡礎なとありていふ所と問は是といふ
竹柴といふさうなり國の人たありて火焚家乃火
焚衛士よさし奉りたるに御前の庭を掃とく
あやや苦きあをみるは我國ふ七川三つ造り
居る酒壺ふゆり渡りて海にさえの歌の南風吹ハ
北よ靡さ北風吹ハ南よなひさ西吹ハ東よ靡さ東
吹ハ西よあひくを見くかくあるよと獨らつふあさ
さふを其時の帝は御むを免いみさうかきはらま
そまふ只獨り御簾の際に立出あひく柱に寄か
ましく御覽もふさふをのこかく獨りけりて

哀よいつなる瓢のいふ靡なるといみさう床く
おほされくまの御簾を押し明くあのをのこあちよんと
めくられかきまると高欄のつらふ参りたるは
云つる事今むとかく我ふいひく聞せよと仰られんは
酒壺の夏今むとく入り申されは我ぬくいきて見せよ
さうゆりありと仰られんはかきこく恐しや思ひ
たれとさうへさうあやあさるんおひあてまつりて下るふ
便なく人追來らんと思ひく其夜勢多の橋はりと
は此宮を居てまつりて瀬田の橋をひきまをさうを
こほちく夫を飛越く此宮はかきあひ奉りて七日
七夜といふ武藏國よいさろいさきまなり帝后御子
うせぬひねとおほさういさろいさきまなり首ふ
國の衛士のをのこなんいさかうをさきりのを首ふ

竹柴寺古事



引くけく飛様も逃ると申出く此をのこ尋ふなるを
るを論なく本の國ふをを行らわと公よを使下りて追ふふ
勢田の橋を渡りて得行やす三月といふはむさし
國あつきて此をのこ尋ふ此御子公使をわ
我さるへきみやありらん此男の家ゆりてぬく行と
いひいふぬく來りていひいふぬくあうく覺ゆこの男罪
しきうせしんハ我といひてあれと是も前世は此國は
跡をきききききとありたりや歸く公より此
しと奏せしと仰らるらんいんくさくてのあり
御門はかくらんありらと奏しらんハ云くひる其男
を罪しても今ハ此宮ととるし一都はかく一奉る
るをいふをいふ竹柴のものをいけらん世の限を
むさし一の國を預りてせし公事もなさせし宮は

其國あつて奉らせ賜ふは宣旨下りてんハ此家
内裡のことく造りて住せさせまらりたる家を宮なと
うせなひよらんハ寺ありてを竹柴寺なり

龜塚

濟海寺の北に隣りて隱岐家の別荘の地あり
昔ハ竹柴寺の境内なりと河國の頃地を割りて隱岐家の別荘
を築き此時龜塚ハ隱岐家内に入りて其家の地なり其主の
碑と稱するあり相傳ふ往古竹柴の衛士の宅地は酒壺
其の頃ふ一つの靈龜栖居後土人崇めて神は祀ま
りの頃あやうらん或時夜ととる風雨あり其翌日
彼酒壺一堆の石は化せりと云又文明中大田道灌此地
斥候を置其龜の靈ありてを河國と号す
祖徠先生墓 三田寺町長松寺といへる淨家の境内あり



魚うま監かん
觀くわん音おん堂だう

碑文ハ倚蘭侯撰

嗚呼夫東物先生之墓也嗚呼先生復學於古歸道
鄒魯博究物理立言修辭德崇名垂不朽莫大焉
嗚呼先生出也如生日之升也乃影之及人所不照其
為嗚呼實出先正十月九日也其為人卒其行狀弟
識矣事保戊申正月洋月十聖日六有三天降文運斯
以字行銘曰弘微洋聖世用惑久天新富運斯人
不壽天棄斯人匪天維棄有司列辰喜我小信瑕能
享神盛德不朽永于牖民

先生ハ菽生氏本姓ハ物部名雙松字ハ茂卿字ハ行一號ハ護園
通稱ハ惣右衛門ト云父ハ方庵ト号シ官医トシ先生ハ後ハ南徳ヨ
住セ五歳中ニ文字ヲ識十五歳ニ文ヲ屬シ家極ニ貧シ東都ニ出ク
カ学ニ業成ク柳澤侯ノ奉ニ遇ヒ食禄五百石ヲ賜リ編修惣裁ト為
享保十三年戊申正月十九日ニ卒セ著述ノ書八十餘部トシ

魚籃觀音堂 同所淨閑寺トシテ淨刹ニ安置シ本尊ハ木像

中ニ六寸計アリ 面相唐女トシテ右ノ所ニ魚籃ヲ
縁起曰唐元和年間 憲宗ノ御幸ハ天衣ヲ持シ一魚ヲ
籃ヲ持シ一魚ヲ鬻クアリ見人其容貌ノ麗シク競ム

女の云く我性佛性ヲ悦ム吾夫ニ通セ凡人アリハ夫トせん
云其中ニ馬氏ノ人アリ是ト云ク依此女ト云ク程
なく死セシ馬氏悲シ堪モ日ト経ク後異僧来リ馬氏ト
共ニ塚トスルニ靈骨トシテ金鎖ヤクナリ光ト放ツ是ナリ
其國ニ三寶ト崇メテ初金沙灘ニ應化シ妙相ヲ
爰ニ當寺ヲ開山稱譽上人自ノ師法譽上人肥州長崎ニ遊化ノ
頃一老婦ヨリ此靈像ヲ感得シ元和三年丁巳豊前國中
津トシテ地ニ假ニ淨舎ト營シ御座ヲ構ヘテ魚籃院ト号シ
竟ニ寛永七年庚午三田ノ地ニ奉安セシト稱譽上人其地ノ
所セシト歎キ兼應元年壬辰正ニ今ノ地ニ移シ當寺ヲ
建立スルヨリ徧素ヲシテ渴仰シ衆人打群ク歩ヲ運ク
よシト靈應ノ如ク香煙常ニ風ニ靡キ梵唄ヲ奏シ林ノ

潮見坂



潮見坂

聖坂の南伊四子臺町より田町九丁目へ下る坂をいふ
 或人云潮見坂曰名ハ潮見崎と呼ぶ
 合と云被よ潮見崎月岬袖崎大崎荒蘭崎竹代崎長瀬崎是等と

伊四子薬師堂

潮見坂より高輪へ下る坂の左側あり寺を醫
 王山福昌寺と号す天台宗城琳本尊薬師佛の像ハ智證大

師の作中々右大将頼朝卿の念持佛なりと云を住古相州
 鎌倉の佐介谷より薬師堂といふ其のち騷乱の時住僧護
 持一々當國品川の地に移しなむ今この地なり終ニ寛永年間
 今の地ニ安置せしむ今鎌倉佐介谷に薬師堂跡と

東鑑曰
 建保六年戊寅十二月二日庚子右京兆依靈夢所
 令草創給之大倉新御堂安置薬師如来像造之慶奉
 今日被遂供養導師莊嚴房良喜供僧也施主並室家
 阿闍梨遍曜堂達願覺房良喜供僧也施主並室家
 等坐簾中此藥師佛と電慶の作と寺傳智證大師と又東鑑ニ右
 京兆とありハ北条右京大夫義時の子なりと

伊豆子
薬師堂



牛小屋

牛町しやまちあり

延宝江戸圖に此地を牛の尻と云とあり

牛を畜する家多く牛の數

一千疋せんひき餘あまり

養やしや入いれ処ところの牛うし額ひら小こ其角後そのつうご靡ひらきころを藪やぶ

覆おほと号なづけく上品じやうひんなり

都みやこ々々牛うしハ行事ぎやうじ正ただしく殊ことハ早はや一ひと形かたち婉わん

精氣せいき撓たふす力量りきりやう勝かた

不ふ軛くわをか多おほ重おもをの乗のせく速はやきに

運こ入いれ人の用もちを助たする

其功誠そのこうまことハ必かならずは古ふるハ淀鳥羽いづるうはの

ありく都みやこの外とほ外とほ々々牛車うしぐるまなり

所ところ入いれ國くにの頃ころより許ゆる宥ゆう

ありく江府えふ中ちゆうを是これを用もちゆ

餘あまハ駿河すまがはハあるの

唯ただ此こゝ三ヶ所さんか所ハ限かぎり

とせ

高輪大木戸

宝永七年庚寅新たうりんおほきと海道の左右たうえいしち石垣いしがきを築きせ

らは高札場たかさしほとかり

其初そのはつハ同所どうじよ田圃でんぼ四行しやうぎやう相あひの三さん辻つじハ

江戸えどの喉口のどぐちなり

此地このちハ

肆海亭しやうかいていと

京登きやうのぼ東下あづまくだり伊勢いせ参まゐ宮みや等らみ旅たび

人を銭ぜにと迎むかへ

常つねハ繁さかる



高輪
牛車
町

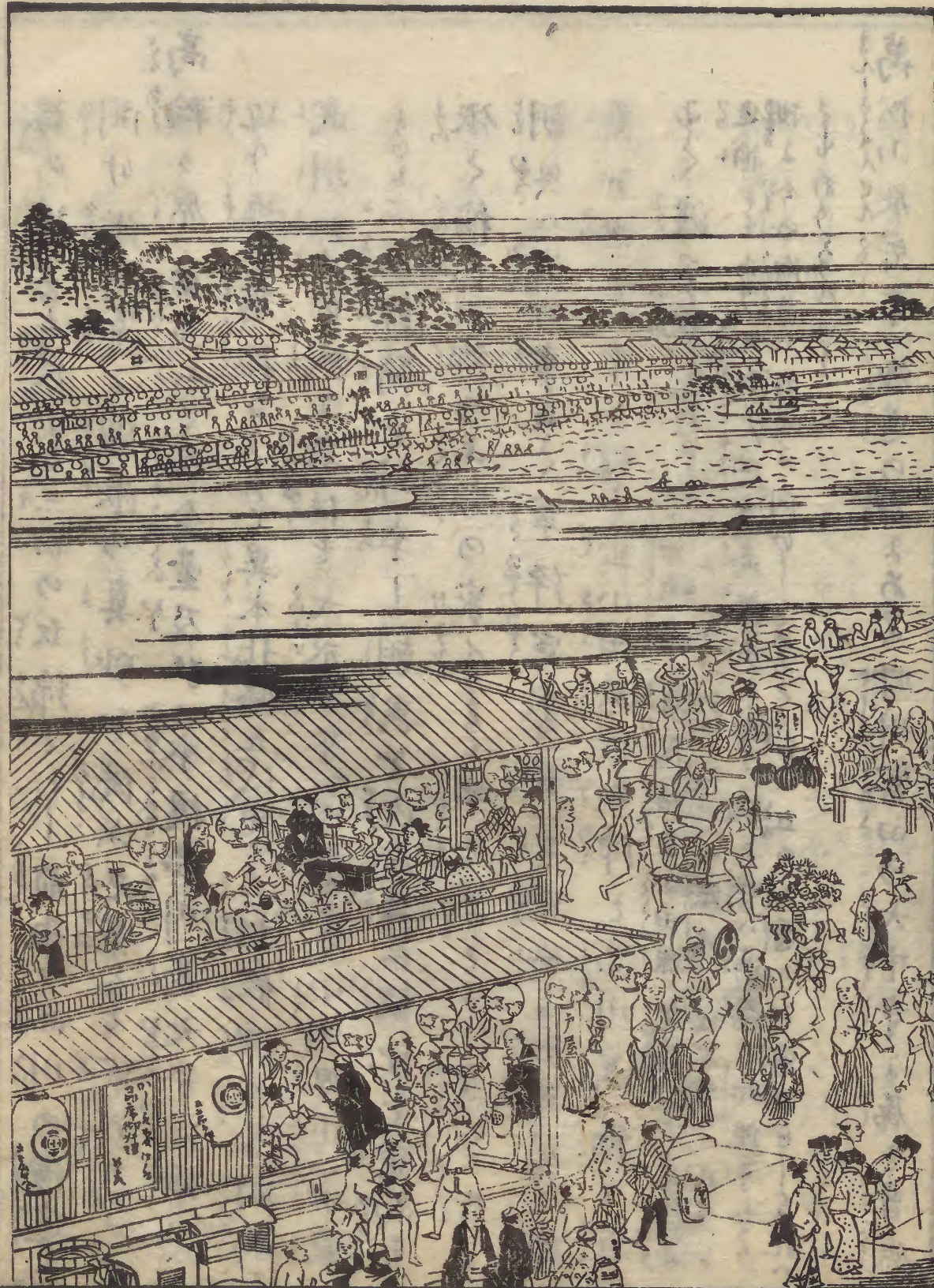


綠海旌郊關高阡
 上路間早朝平吐
 日殘霧半含山遠
 近征帆出東西驛
 馬班長安從此去
 萬里幾人還
 南郭



高輪
 大木戸





高輪海邊
七月
二十六夜待



昌の地と後中三田の丘綿く、前わ品川の海邊の
開け渚に寄る浦浪の真砂を洗入光景を最興あり
高輪原里老云く白金臺及び二本榎品川臺大井村杯に
迎り迄の惣称よりと異本北條五代記上杉修理大夫朝興
武州江戸の城に居住を大永四年正月十日小田原北條家
の二万餘騎を引率し朝興と攻んるに彼地を發向を
依り稻毛六郷の上杉の家人より早馬をとく急を告る
朝興ハ俄の事あり軍評定中も及び中途に出迎ひて勝
負を決せしとす出小田原の先陣と品川高輪原
の渡り合とあり小田原記云く永禄信玄小田原を攻むとす信玄
追捕せし又江戸世は高繩手とあり然る時ハ高繩ハ高繩手なり
擬ハ今の海道ハ後世は開けしものあり古ハ丘の上通りと通路せしるハ
萬松山泉岳寺海道の右あり野州富田の大中寺は屬を曹洞

宗江戸三箇寺の一員とす橋場總泉寺芝坊舎三字学寮九
青松寺當寺也
宇あり當寺ハ往古慶長年間台命を奉り門庵宗開
和尚外櫻田の地に創建する所此禪刹あり後寛永十
八年辛巳再命あり寺を今の地に移りたりと云本尊
釋迦如来ハ座像二尺計あり脇士ハ文珠普賢なり總
門の額萬松山の三大字ハ華僧閩沙門道霈の書なり
康熙辛酉孟冬上浣と記せり
當寺ハ淺野家の香花院なり其家累代の兆域あり
又淺野内匠頭長矩及び義士四十七人の石塔あり方丈
より南の丘に半腹あり傍に當寺住僧建る所此石
碑あり其旨趣を注し二月三月の四日及び五月七月の十
六日等ゆを英名を追慕しこゝに集ふ人少く又當寺ハ
義士等の遺物を收藏する多し



元禄十四年三月十四日浅野内匠頭長矩吉良上野介義英
と刃傷及ぶよふと長矩は死とあり後其家の長臣大石
内蔵助良雄本國播州赤穂に在る君の讐は共天と
戴へるよふと云の義ふよふと血盟を以て同志の者とわし
らひ終は元禄十五年十二月十四日讐家に至り義士四十
七人義英の所在を捜し其首級を得當寺に至り亡
君の墓前祭るの後誅を待て翌十六年二月四日自殺せ
しむハ諸書不詳なるを以て之を省く

歸命山如来寺 大日院と號を泉岳寺の南に隣る天台宗
ゆゑ東叡山は属せし本尊五智如来八座像各一丈あり
大佛と稱す木食但唱師の彫造なり但唱ハ佛工や
奇如來佛と号す京都市の五智山に安坐する所の石像の
五智如来十三佛等ハ但唱の作なり并自の像をも作す
揚州有馬郡高須村の産なり彼所は壘龜山與勝寺と云古刹
如來及自の像を其母有馬薬師は祈請して是と説く
彫刻安置せり三歳ゆゑ魚肉と食せし九歳初出家す年十五至
木食但善の弟子とあり夫の後信州檀特山は籠り
百日の中念佛三昧と修得一向の峯は三尊の影向を
拜と同國浅間嶽及ひ南紀の那智山等は籠るる各
百日宛又南海北溟の間と普く回し諸の奇特と云る
多し終は江戸に下り寛永十二年當寺を開創し五智如来
の像を作るとし三時念佛の勸ハ但善
卧龍岡境内堂前北の岡と云形状を以て号とせ上は天満
宮の祠あり天神山と云へり

太子堂 同所旭曜山常照寺と云る天台宗の寺あり聖徳

太子の像ハ十六歳の容なり自作すなり
元禄年間開校の江ノ鹿子と云る所の不明曆年間越後守光長卿の
陪臣川本兵衛某故あり此所は安置しと云るあり



稻荷祠 太子堂 庚申堂の中は並ひ立せり高輪は
産土神なり

庚申堂 同一境内あり本青面金剛の本像なり撰州

四天王寺の住侶民部卿僧都豪範の作とり縁起云

大宝元年辛丑正月庚申の日ハ一年の間六度ありて八專

の間日中より人間は三尸といふ三の悪蟲ありて災と

招く然る庚申と祭る時ハ此蟲退散し身は幸と来りしめ

若不信の輩ある時ハ命根と吸悪業と天帝は訴ふ今帝

釋天王衆生とあはれしめ故は汝は此法を附屬を我ハ

則青面金剛なり又十二の誓願を示しし僧都信

心肝は命一直る感見しなる所の容を彫刻し普く

衆生ハ庚申の法と授くとあり

光照山常光寺 同所北町あり浄土宗中々芝増上寺

属を洞山と大誓上人と号し本金像の阿弥陀如来

なり世に信州善光寺分敷縁起云此靈像ハ聖徳太子難波

の堀江の水面中々容を拜しし其の像を鑄さ

しむ後元暦元年播州一の谷合戦の時武蔵國の住人

岡部六弥太忠澄撰州蘆屋の里に陣し時或翁

此像を忠澄に受与す忠澄大に歡喜し鎧櫃に収め

出陣し然る靈威の有りて危難を除き刺へ忠度を

討く武名を顯せり依代其家傳へしと獨夜と云僧

故ありて増上寺第四十六世前大僧正定月和尚へなる

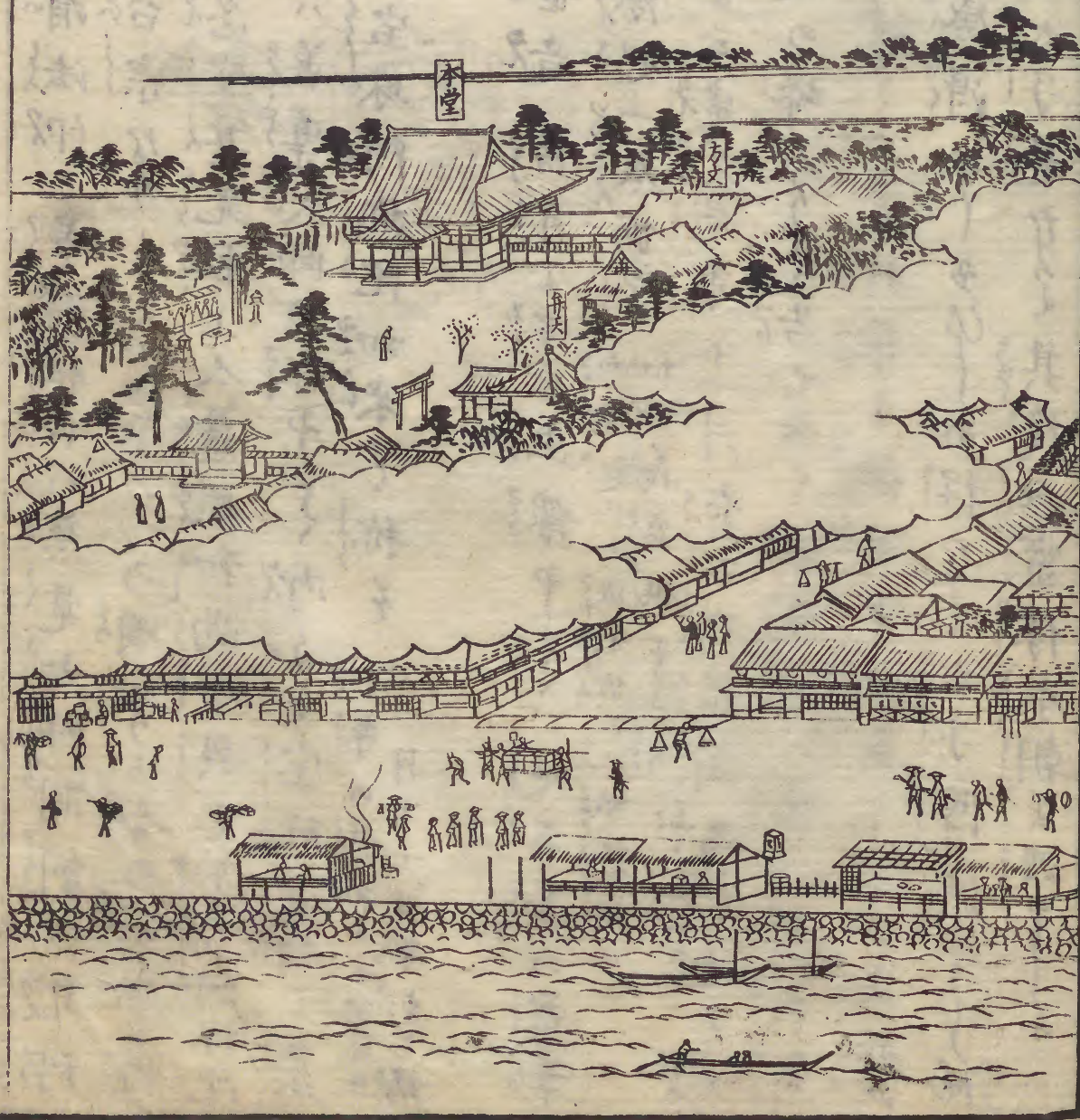
遂に定月和尚件の旨趣と自記し本尊と共に

當寺に収られし故也當寺境内は岡部六弥本

墓と呼ぶ古き石塔の破壊せしものを存せり

珠玉山宝蔵寺 同所あり浄土宗中々芝増上寺に属す

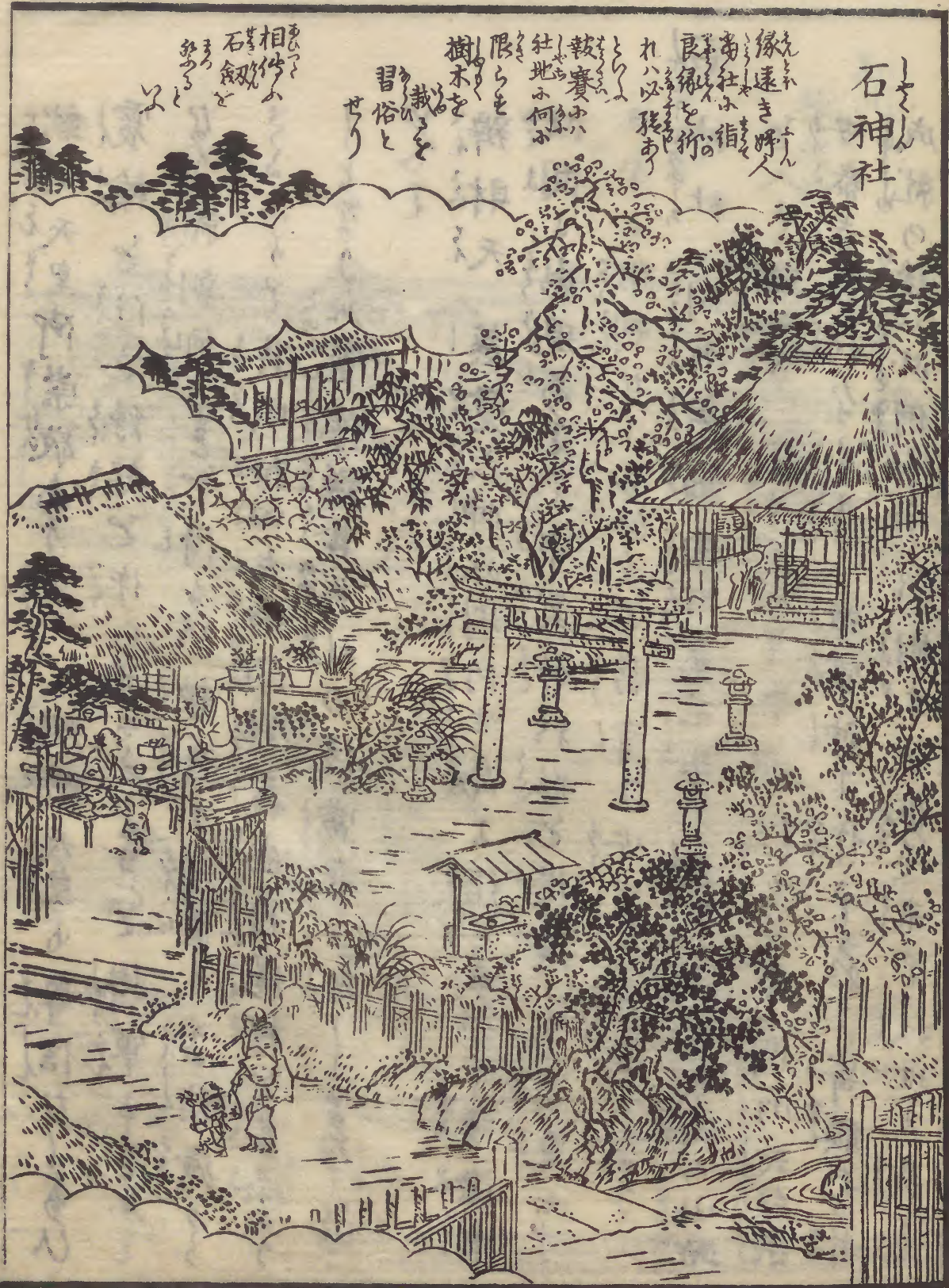
常光寺



太子堂
稻荷社
庚申堂



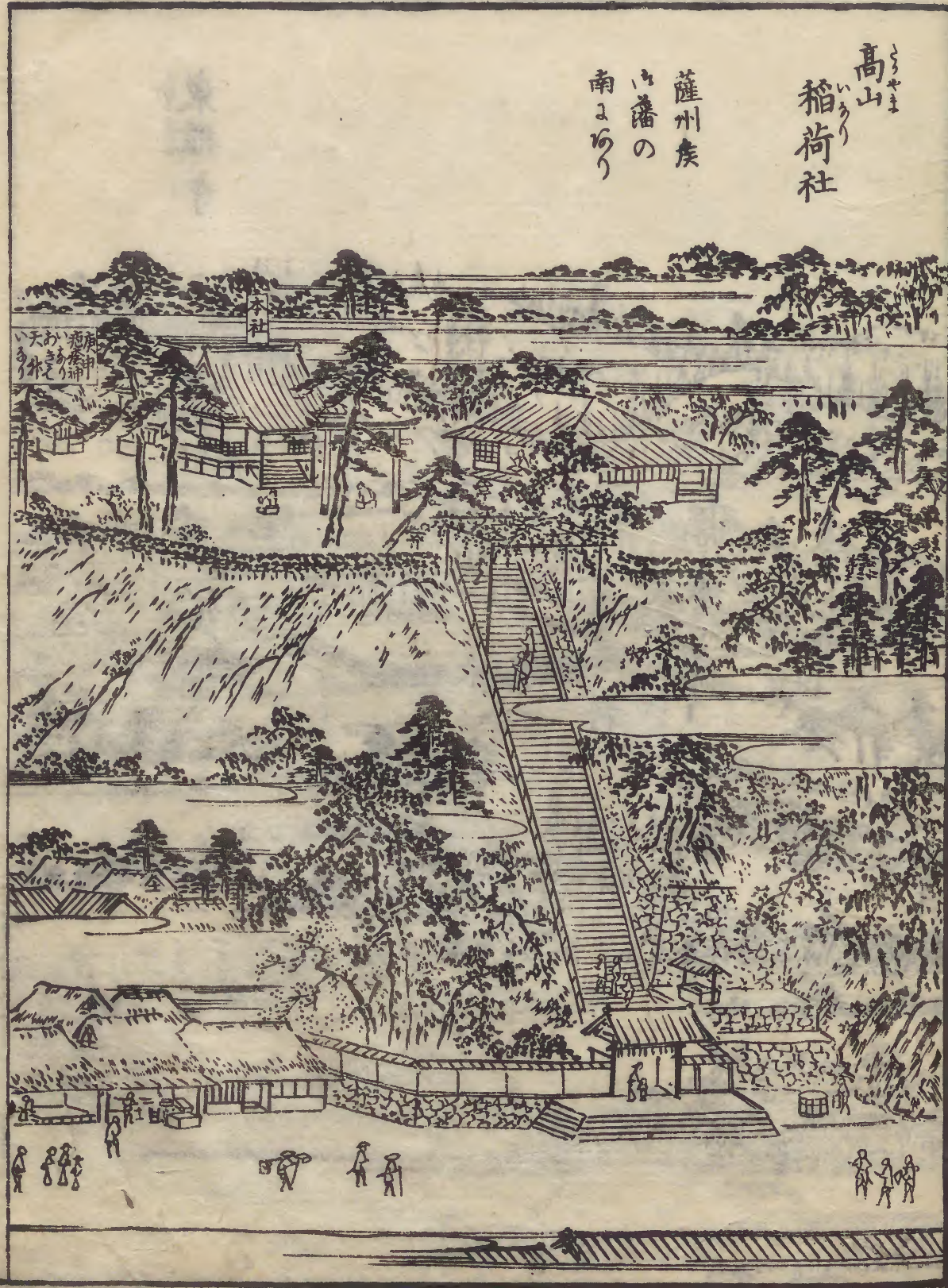
辺海論高



石神社
 縁遠き時人
 長緑を折
 れハ必張あり
 較賽ハ
 社地ハ何ハ
 限らそ
 樹木を
 習俗と
 相傳ハ
 石鏡と
 又

開山ハ順清法印と号し往古ハ慈覺大師開創の梵刹
 中々天台宗なりしと云ふ所の頃あり今ノ宗風ハ轉
 して七世忍空甚光勅上人慧順和尚中興を奉る阿弥陀
 如来の像ハ善導大師の作なり御座る宝珠と持し
 故ニ世俗宝珠阿弥陀如来と稱す
 本尊の背面ハ永隆元年
 十一月十七日彫刻と鐫
 子安觀世音當寺ニ安を画像なり
 延喜帝の震筆
 なりと云縁起一巻あり
 和画縁起ハ土佐光信と云略縁起ハ
 縁起略ニ云建久元年十一月右大将頼朝卿上洛を其
 途中一人の婦あり告て云く此靈像ハ梁武帝未皇
 太子マゆき時常ニ觀音を祈念し或時此
 靈像と感得なり其後此靈像本朝ニ渡り
 せり昭明太子是なり

高山
稲荷社
薩州
内藩の
南あり



欽明天皇御崇敬あり又醍醐天皇の尊信なり
 震翰を注ぎ縁起を作らせしを將軍よこまふと
 なり頼朝卿を多得し鎌倉に安置し信浅く
 ざるありて其頃和田左衛門尉義盛再縁起と書添
 してなり此靈像鎌倉兵乱の後當寺に遷し
 辨財天 慈覺大師江州竹生島に詣て多し頃海中
 波間に影現あり宇賀神社形と摸擬し御長七寸
 三分彫刺なり多しを當寺に安置し
 石神社 同所高輪南町鹿兒島久苗米両俵の間の小路
 を入る西の方二丁斗ありを祭神詳ならず同所天台宗
 安泰寺の持なり昔、遮軍神を作り寄願あり者
 成就の後ハ必何より樹木と携へ來り社地を裁



東禪寺

賽さいままととりり此こ地ちと石い神しん横よこ町まちと字あままととるるハ此こ社しゃああるる所ところ

佛ぶつ日にっ山さん東とう禪ぜん寺じ同どう所しよ高こう輪りん中ちゆう町まちああるる妙めう心しん派はいのの禪ぜん宗しゆう江えい戸こ

四し箇くわ寺じのの一いつなりなり本ほん尊そんハ釋しやく迦か如にょ來らい開かい山さんハ嶺れい南なん和わ尚しやうと号ごう派はい

寶ほう鑑けん國こく師し和わ尚しやうハ日にっ向きやう國こく飲いん肥ひのの人にん守しゆ永えい氏し肥ひ前ぜん守しゆ祐ゆう良りやうのの五ご

駁はくかかりり幼ごう佛ぶつ門もんハ入いりり後ご宗しゆう門もんのの大だい德とくととるる寛かん永えい二に十じゆう年ねん

七しち日にち寂じやくをを慶けい長ちやうのの頃ころ江えい戸こヨよ來きるる阿あ左さ布ふハ一いつ宇うとと開かいくく當たう寺じ

題だいななりり其その地ちとと今いまもも豐ほう南なん坂さかとと云いふふ寬かん永えい年ねん間かん今いまのの地ちハ移うつるる徳とく門もんハ海うみ

臨りんむむ此こ門もんのの額がく海かい上じやう禪ぜん林りんのの四し大だい字じハ朝てう鮮せん國こく雪せつ峯ほう比ひ筆ふで

寶ほう鑑けん錄ろく云いふふ救きう謚い大だい法ぽう鑑けん禪ぜん師し嶺れい南なん和わ尚しやう大だい心しん中ちゆう興きやう主しゆ盟めい東とう禪ぜん

有う喜き壽じゆうハ懽かん宮きやう寺じ外がい右みぎのの方かたハ安あん泰たい寺じ奉ほう記きす

開かい闡ぜん始し祖そ得とく法ぽう洛らく西せい之し地ち探たん轉てん向きやう上じやう機き關かん盛せい化け海かい東とう

此地このちと有う喜き壽じゆうのの森もりと号ごうくく或ある人ひと云いふふ古こへへ老らう樹じゆのの傍かたはらハ一いつ株かたありり也なり

谷たに山さん今いま云いふふ所ところハ品しん川せんのの入いりり口くちハありり海うみハ臨りんむむ所ところとと号ごうす

ああるるよよへへとと昔むかしハ大だい日にち山さんと号ごうすすとと号ごうすす紫むらさきのの本ほんとと号ごうすす草くさ帝ていハ昔むかし

楮かみ侯こうハ人ひとのの新しん宅たくありり一いつ所ところありり谷たに山さんハ邑い名なありり一いつ所ところありり目め黒くろのの南なんありり

袖そで崎さき仙せん臺たい侯こう別べつ莊しやうのの地ちのの辺へハかかげげくく都みやこハ谷たに山さん村むらたたりり也なり

此こ地ちハ限かぎりりななくく号ごうすすありり大だい日にち山さんとと号ごうすす昔むかし此こ地ちハ石いし像ざうのの

後ご世せい其その堂だう宇う破は壞くわい日にち一いつ頃ころ谷たに山さん指さし荷かりのの地ちハ一いつ所ところありり又また品しん川せん北きた馬ば場ばうのの光こう嚴げん

寺じハ収こむむととりり今いまハ其その石いし像ざうのの所ところ在あるるとと号ごうすす

江戸名所圖會天樞下終

